

全国曹洞宗青年会  
S O U S E I

特集 『アニメ世代のための宗教ガイド』

— 宗教をひも解くもつひとつのアプローチ —



No.131

2005.Nov

# 今、命を見つめる

— こどもたちの未来のために —

- ◆期 日 平成17年 11月23日(水・勤労感謝の日)～24日(木)
- ◆会 場 ●講演会:11月23日 午後0時半～4時半  
 県民文化ホール未来会館 (岐阜市学園町3-42 TEL058-296-0886)
- 懇親会,宿泊,研修会:11月23日 午後6時～11月24日午前11時  
 岐阜観光ホテル十八楼 (岐阜市湊町10 TEL058-265-1551)

◆講 師  
 第1日



◎第1部 祈り  
 「転読大般若御祈祷法要」  
 導師:宮本洪純 老師  
 (龍泰寺住職、曹洞宗岐阜県青年会初代会長)



◎第2部 講演  
 「富士山から日本を変える  
 ～守るべき未来への遺産～」  
 野口 健氏  
 (アルビニスト)



◎第3部 対談  
 「今、私たちの課題」  
 野口 健氏  
 (アルビニスト)  
 高木 美保氏  
 (タレント・エッセイスト)

第2日

◎曹青教化活動研修会 「今後の青年会活動を見つめる」  
 小島 泰道 老師 (長國寺住職、宗議会議員、元東海管区曹洞宗青年会会長)

- ◆参加費 25,000円 (全日程参加 宿泊・懇親会費込み)  
 \*宿泊不要の方18,000円 \*県民文化ホールのみ参加1,500円
- ◆携行品 黒衣・木欄袈裟・べっす・坐具・白衣 (大般若法要に御随喜戴ける方のみ)
- ◆申込方法 参加ご希望の方は、各曹青会の全曹青評議員様を通じて、お申し込み下さいますようお願い申し上げます。
- ◆大会日程

第1日(11月23日)

【県民文化ホール】 (対象:一般・県内寺院・青年会員)  
 午後0時30分 開場  
 1時30分 オープニング  
 1時35分 第1部 祈り「転読大般若御祈祷法要」  
 (宮本洪純老師ほか随喜70名全曹青、東海曹青会員)  
 2時20分 第2部 講演 (野口健氏)  
 3時30分 第3部 対談 (野口健氏・高木美保氏)  
 4時20分 終演

【ホテル十八楼】 (対象:県内寺院・青年会員)  
 午後6時 大会懇親会

第2日(11月24日)

【ホテル十八楼】 (対象:青年会員)  
 午前9時 曹青教化活動研修会  
 東海管区各曹青会の活動報告  
 質疑応答  
 10時30分 講評 (小島泰道 老師)  
 11時 閉会  
 昼食後解散



Contents

- 04 『アニメ世代のための宗教ガイド』  
— 宗教をひも解く もうひとつのアプローチ —
- 11 「EN×EN」ぴーぷる 大平一誠師（岐阜県／浄土真宗本願寺派 覚成寺）
- 14 全曹青情報局 — 台風14号災害復旧ボランティアレポート —
- 16 青少年教化委員会レポート — 精神医療の現場から(1) —
- 17 IT智慧ぶくろ
- 19 世界の重層信仰(1) — 『シンクレティズム』とは? —
- 20 現代の日本における仏教環境運動（最終回）
- 22 「禅」知識まんだら(2) — 上座仏教における瞑想と実践 —
- 24 賛助会名簿
- 26 青年会モザイク — 愛知県第三宗務所青年会 —
- 27 そうせい相談室
- 28 あまんずそうせい
- 29 寺族の窓
- 30 菜食健美
- 31 そうせいサロン
- 32 そうせい美術館



特集

# アニメ世代のための 宗教ガイド

— 宗教をひも解く もうひとつのアプローチ —

宗教？ 何だかよく解らないけど、

今回の特集ではアニメを取り上げます。但し、アニメはあくまでサブテキスト・方便施設であり、その趣旨は「そうせい」誌が従来取り組んできた通り、青年僧の立場で宗教・仏教のことを考え、青少年教化の一助とすることに変わりはありません。

日常において、伝統的な宗教儀礼から縁遠くなり、「宗教離れ」が進む青少年には、教団が綿密に護持してきた旧来の教説や教化手段を、そのまま提示するのは敬遠される傾向があります。そんな青少年の、ごく日常に根差したテキストや教化方法を模索する一つの試みとして、編集部はサブカルチャー（大衆文化・副次文化）に着目しました。青少年は伝統や家・地域社会といった、包括的な枠組み（メインカルチャー）に捕らわれずに、その生態や指向性が「個人化・断片化」する傾向があります。サブカルチャーは、その個人に対して直接的に作用する文化と言えます。そこに宗教的な含意を付加して、「宗教離れ・無宗教」の青少年と宗教との間に「橋渡し」をしようというのが、この特集の目的です。

サブカルチャーの中で、特にアニメに焦点を絞ったのは、特に現代の日本が世界に範たる「アニメ先進国」である点が挙げられます。我々は幼少からその恩恵を受け、アニメに親しんできました。例えば『サザエさん』と聞くと一抹の寂寥感を覚える方も多いのではないのでしょうか。その放映時間が日曜日の夕刻であることから、楽しかった休日の終わりという証左です。また近年では、アニメを輸出用の優良コンテンツ、まさにかつて浮世絵が果たした役割で世界に発信する動きが、官民を挙げて活発化しています。（映画・マンガ・音楽などといった他のサブカルチャーの領域でも、同様のアプローチは可能であると考えますが、これは今後の検討課題とします。）

以上の事情を踏まえて、執筆者の方がたには、アニメという素材を利用して、それぞれの立場から宗教にまつわる論述を賜りました。

この試みが、その教化対象と世代の多くを共有する青年僧各位に、新たなヒントを与え、ひいては教団全体の青少年教化拡充の一助となることを願い、アニメ世代のための宗教ガイド” 発進！  
（文中敬称略）

アニメだったら、何となく解るんだ。



episode 1

アニメと仮想と現実と

南直哉

■「アニメ第一世代」の証言

一九五八年生まれの私は、テレビアニメの第一世代に属するだろう。『鉄腕アトム』(六三年)や『鉄人28号』(六三年)の白黒オリジナルを見ていたのだから、大げさに言えば、「歴史の証人」である。

当時、私の父親は、私がアトムや鉄人に熱中していると、「お前がこんなものを見なくなるのはいつかな。楽しんでみだな」と言っていた。

ところが、期待に反して、息子は一向に卒業しなかった。子どもには、アニメの持ち込む世界が、それなりの「現実」だったのだ。

しかし、さすがに中学・高校生くらいになると、アニメの単純なストーリーがつまらなくなる。と、ちょうどその頃、突然現れたのが『宇宙戦艦ヤマト』(七四年)である。

私がこのアニメに衝撃を受けたのは、父親ではないが、こういうものが出てきた以上、「子ども」はアニメから卒業しないだろう、ということ。つまり、「大人」が見るに堪えるものに変貌していくだろう、ということだった。

そこには、集団と集団の相克、その中における組織と個人の軋轢など、あきらかに普遍的な社会的「現実」が、見事に映像化されていた。つまり、従来の小説・映画に遜色ない表現手段として成立していたのである。

■現実感の変容

ところが、事態は、私の想像を超える進化を遂げた。一九九〇年代あたりから、パソコンをはじめとするコンピュータと情報通信技術の爆発的な発展が実感されるようになり、急速に我々の生活に浸透しだすと、我々の「現実」感覚を変え始めたのである。

新しい技術を駆使したメディアが提供する「仮想」世界は、具体的な効果や力を持つて我々の生活に介入してくる以上、それは最早「現実」である。少なくとも、従来「現実」とされてきたものとの区別は、問い直さざるを得ない。少年犯罪のたびに「メディアの影響」が議論されるのは、それが「現実」の力である証拠だ。

ここにいたって、アニメも決定的な進化を遂げる。まさに、この「仮想」

と「現実」の意味を問い直さざるを得ない社会の構造を、最も鮮烈かつ的確に表現するものとして、あるアニメが登場したのだ。『GHOST IN THE SHELL—攻殻機動隊—』(九五年)である。コンピュータ普及の起爆剤となった「ウインドウズ95」の登場と同じ時期であることは、象徴的だろう。

「企業のネットが星を覆い、電子や光が駆け巡っても、国家や民族が消えてなくなるほどは情報化されていない近未来」

『攻殻機動隊』の時代設定を、映画の冒頭ではこう定義する。技術革新により、人びとは脳や身体を機械的に補強し、頸部のインターフェイスから脳を直接インターネットに接続して、電子情報を頭の中で共有出来るようになった。その一方で、国家間の外交問題や民族紛争やテロリズム、社会不安は依然としてなくなり、情報伝達の効率化と高速化が新たな犯罪を引き起こしている。

物語は、このような時代背景に国家機関内の特殊部隊である公安9課、通

称「攻殻機動隊」の活躍を描く。

某国との秘密会議に出席する予定だった外務大臣の通訳の脳が、外部からのハッキング(クラッキング)を受けて、会議の妨害工作が図られる。公安9課が捜査に乗り出し、ハッキング元を逆探知すると、国際指名手配中で、電脳犯罪史上最もユニークと評されるハッカー、通称「人形使い」によるものと判明する。

後日、事故で9課のラボに持ち込まれた義体の脳に、その「人形使い」が入り込んでいた。「人形使い」は、自らを「情報の海で発生した生命体」と主張し、政治的亡命を希望する。その直後、9課が何者かの襲撃を受け、「人形使い」は義体ごと持ち去られる。犯人を追跡しながらも、攻殻機動隊の実務リーダー草薙素子は、「人形使い」の主張に興味を持ち、接触を試みる。実は、「人形使い」も素子を求めて、接触を試みていた。そして…

『GHOST IN THE SHELL』。つまり、精神・自我意識とその受け皿としての殻(身体)という、そのタイトルからも、本作の哲学・宗教的なテーマ性が伺える。

士郎正宗の原作マンガを映画化したこの作品は、米国ビルボードチャートのセルビデオ部門で一位を獲得し、日本製アニメーションの傑作として今日も国内外で評価の高い作品である。監督は『タイムボカン』シリーズや『う



る星やつら』『機動警察。パトレイバー』などを手がけた押井守。

二〇〇四年には続編『イノセンス』が世界公開された。(編集部注)

このアニメは、先端技術によって個人の意識を操作することで、イメージと現実の区別が無意味になる世界を描き出す。それは、変わり始めた我々の「現実」の構造を提示することであった。その最も端的な例は、「自分」という存在の現実感の変容に現れる。以下の主人公の述懐は、最近の「引きこもり」と称される若者などが口にする、「自分が誰だかわからない」という訴えに共通する。

「私みたいに完全に義体化したサイボーグなら、誰でも考えるわ。もしかしたら自分とはつきの昔に死んじゃって、今の自分は電脳と義体で構成された模擬人格なんじゃないかって。いやそもそも始めから、私なんでもものは存在しなかったんじゃないかって。(中略)自分の脳を見た人間なんていやしないわ。所詮は周囲の状況で、私らしきものがあると判断してるだけよ。(中略)もし電脳それ自体がゴースト(自我意識)を生み出し、魂を宿すとしたら...その時は何を根拠に自分を信じる

べきだと思う?」

劇中、素子は、わずかな容量の脳を残して、全て人工的で代替可能なサイボーグの身体となった自身を顧み、「自己存在」の曖昧さを吐露する。(編集部注)

### ■「唯識」の現代

さて、そろそろ読者諸賢にも拙文の落しどころが見えてきただろう。

「自己存在」の無根拠さ、そして「共同化されたイメージこそ現実だ」ということは、仏教でどうの昔に言われていたことである。その代表が「唯識論」だ。

「唯識論」によれば、「現実」は物ではなく、意味である。たとえば、「机がある」ということは、そこにある物体自身が「机」としての根拠を持って存在することではない。我々がその物を「机」として教えられ、「机だ」と見なすから、「机」なのである。同じ様に、「自己」を含めこの世のあらゆる事物・事象は、言語(名言種子)によって、自意識以前と想定される領域(阿頼耶識)において加工され、徹底的に共同化される。つまり、「自己」も「現実」も、作り出されたもの(仏教で言う「有為」)であり、根拠無く仮設された存在であり、その意味で「仮想」されたイメージと原理的に区別されない(所詮は周囲の状

況で、私らしきものがあると判断してただけよ)。

一方がデジタル信号を、他方が言語を脳に送り込むことで、我々は互いに「現実」を制作するのだと、一五〇〇年の時を隔て、同じ解釈が提示されている。いま、私が仏教を学ぶ意味を信じる所以である。

### ○南直哉(みなみ じきさい)



昭和三十三年、長野県生まれ。福井県豊泉寺住職。早稲田大学第一文学部卒。昭和五十九年、永平寺入門。国際部兼人權擁護推進室などを歴任後、平成十五年年送行。東京都港区青松寺獅子吼林サンガ主幹を経て、現在は恐山菩提寺院代。著書に『語る禅僧』(朝日新聞社)、『日常生活のなかの禅』(講談社選書メチエ)、『問い』から始まる仏教(佼成出版社)など。

### コラム 胡蘭夢

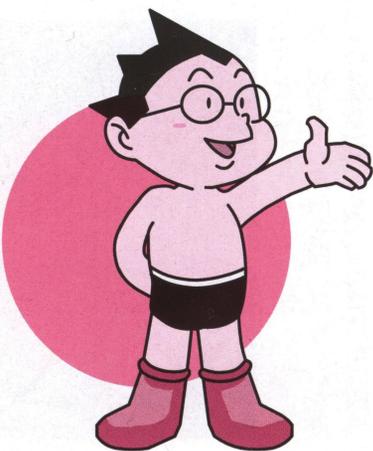
日本で一番有名な僧侶というところ、一休宗純(一三九四～一四八一年)ではないだろうか。これにはアニメ『一休さん』(一九七五～八一年 全一九六話)の果たした役割が大きい。仏教とアニメが共存した一番の成功例と言えよう。

現在、日本製の子ども向けアニメは世界中で親しまれている。『ドラゴンボール』や『ポケモン』がその代表であるが、アジア各国、特に仏教国を中心に『一休さん』の人気は凄むる高い。権利元の東映アニメーションは今年、中国向けに提供する携帯電話用コンテンツのキャラクターに『一休さん』の採用を決めた。

筆者(広報委員S)がボランテイアでミヤノマーの奥地の村を訪れた際、村人が知っている日本のテレビ番組が『おしん』と『一休さん』だった。中には「Kkyy」と名付けられた子どもがいたほどだ。ちなみに、安国寺修行時代の一休宗純は「周建」という名で、「一休」と名乗るのは後年のことである。

童顔の筆者などは、最近でも法事で子どもに「あっ、一休さんだ」と言われる始末。延べ二十年間も「一休さん」のままである...

## アニメが言わんとする「自己」を、 仏教はどこの昔に言っている。





なぜ、アニメなのか？  
 ■なぜ、宗教学者がアニメに関心をもつのか。その理由は、主として二つある。  
 一つは、アニメが、現代の重要なテーマに、果敢に取り組んでいるからである。もちろんすべてのアニメが現代の重要なテーマに、果敢に取り組んでいるとはいわない。その逆にほとんどのアニメは視聴者や観客のあまり高級でない嗜好に媚びるだけで、アツという間に消費されて終わる。しかし一部のアニメ作家、具体的に名をあげれば、宮崎駿・押井守・庵野秀明・大友克洋といった人びとの作品は、現代の重要なテーマに果敢に取り組んでいる。  
 宮崎は『となりのトトロ』（八八年）以来、『千と千尋の神隠し』（二〇〇一年）に至るまでほぼ一貫して、二十一世紀のキーワードといわれる共生・アニミズムを時代に先駆けて追求してきた。押井は『GHOST IN THE SHELL』や『イノセンス』によって電脳ネットワーク社会の危機的状況を、庵野は『エヴァンゲリオン』（九五五年）をとおして人格に致命的な欠落を生じてしまった若者たちの姿を、この種の問題が表面化するはるか以前から描き出している。大友が『AKIRA』（八八年）によって、オウム真理教事件を文字どおり予見していたのは、空恐ろしいほどだ。

二つ目の理由は、さきにあげた作家たちのアニメが、大衆性という面でも、広く開かれていて、けっして閉じていない点にある。わかりやすくいえば、メは視聴者や観客のあまり高級でない嗜好に媚びるだけで、アツという間に消費されて終わる。しかし一部のアニメ作家、具体的に名をあげれば、宮崎駿・押井守・庵野秀明・大友克洋といった人びとの作品は、現代の重要なテーマに果敢に取り組んでいる。  
 宮崎は『となりのトトロ』（八八年）以来、『千と千尋の神隠し』（二〇〇一年）に至るまでほぼ一貫して、二十一世紀のキーワードといわれる共生・アニミズムを時代に先駆けて追求してきた。押井は『GHOST IN THE SHELL』や『イノセンス』によって電脳ネットワーク社会の危機的状況を、庵野は『エヴァンゲリオン』（九五五年）をとおして人格に致命的な欠落を生じてしまった若者たちの姿を、この種の問題が表面化するはるか以前から描き出している。大友が『AKIRA』（八八年）によって、オウム真理教事件を文字どおり予見していたのは、空恐ろしいほどだ。

間口が広く、敷居が低い。  
 この点を、宮崎アニメを例にとりて、考えてみよう。いうまでもないが、動員力において、宮崎アニメははずば抜けている。有名な文学賞を受けた小説が大ベストセラーになっても、たかだか一〇〇万部である。『千と千尋の神隠し』は、リピーターを含むとはいえ、なんと観客動員は二三〇〇万人以上にもなった。早い話が、小説を読むよりもアニメを見る人のほうが桁違いに多い。しかも老若男女を問わない。となれば、これを利用しない手はない。  
 ■宮崎アニメの可能性  
 そもそも私が宮崎アニメに注目したのは、勉強嫌いの学生たちにたいする処方箋として、だった。担当していた宗教学や人類学を、しきたりどおり「最初に学問の定義から……」などどやっていた日には、大半の学生は聞く耳をもたない。「なに、それ？」である。  
 そこで、私はまず学問への入門や導入に工夫を凝らすことにした。基本的なコンセプトは、とにかく間口を広く、垣根を低くすることだった。学生たちが学問に「楽しい！ おもしろい！」と興味や関心を示してくれば、しめたものだ。あとはどうにでもなる。  
 このコンセプトにもとづいて、さまざまな試行錯誤がはじまった。その結果が、宮崎アニメを宗教学や人類学の入門に利用することだったのである。実例をあげれば、宗教学にとつて基本コンセプトの一つといっているアニメイズムを学ぶとき、いちばん使いやすいのは『千と千尋の神隠し』や『となりのトトロ』である。  
 その際、話をこうもつていく。『千と千尋の神隠し』みたいな作品をアニメ (anime, animation) というけれど、アニメという言葉は、ラテン語で「魂」とか「生命」を意味するアニマ (anima) が語源になっていると指摘する。このアニメに、「考え方」とか「思想」とか「信仰」を意味するイズム (ism) を付けると、アニミズム (animism) という言葉が生まれる。ようするに、「万物に靈魂が宿っている、という考え方」とか「万物に宿っている靈魂に対する信仰」だ……。

## episode 2

## アニメ宗教学の可能性

正木 晃





仏像を造らせたという記事があると教える。こうすれば、とかく難しいと敬遠されがちな宗教美術の領域にも、すんなり入っている。

### ■道元思想を理解できるかも

この調子でいけば、やがては道元思想だって理解できるかもしれない。例をあげると、『正法眼蔵』の「身心学道」にある「墻壁瓦礫これ心なり」という文言にたいする理解である。曹洞宗の方なら先刻ご承知のように、「仏とは瓦や石ころである」という意味で、ひいては瓦や石ころも成仏するという深い思想の表明になる。

あるいは「峰の色 谷のひびきも 皆ながら 我が釈迦牟尼の声と姿」という道歌や、有名な「本来の面目」と題する道歌、すなわち「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて ずずしかりけり」も、意図するところは同じであろう。

ただしいきなり「墻壁瓦礫これ心なり」とか「峰の色……」、「春は花……」といわれても、その真意を深く理解するのは、専門家でも難しい。ましてや一般人にはとても無理である。しかし私が例示したように、宮崎アニメを導入にもちいて、話を少しずつ深いところに進めていけば、難解中

の難解とされる道元思想を、深く理解することもまったくの夢ではない。とくにアニメ好きな若い世代は、伝統文化は知らないかわり、その分かえって既成の観念に惑わされにくいので、案外早く理解に達するかもしれない。

道元の思想とアニメズムの関係については、人類学者の岩田慶治氏が、みずからのフィールドワークをふまえて、縦横無尽に論じているので、ぜひお読みいただきたい。たとえば、『道元の見た宇宙』（青土社）や『道元との対話 人類学の立場から』（講談社学術文庫）などには、アニメズムが人類の最も原初的な宗教意識でありながら、いやそれゆえに最も根源的であり、道元はそのことを正しく見抜き、しかもそこにとどまることなく、人類にとつて最も高度な宗教思想に昇華している、と語られている。

むしろ道元思想をアニメズムの次元で理解されては困るという意見もある。私も道元思想がまるごとアニメズムなどと主張する気はさらさらない。

しかし道元思想がどこかでアニメズムとつながっている点は、認めても良いのではないか。むしろ日本型アニメズムを根っこにして、そこから最高度の大乘仏教思想の花を開かせた存在として、道元を位置付ける必要があるのではないか。少なくともそういう仮説が認められるなら、宮崎アニメを起点として、道元思想を多くの人びとに広げる絶好のチャンスがおとずれる。私はそう信じている。

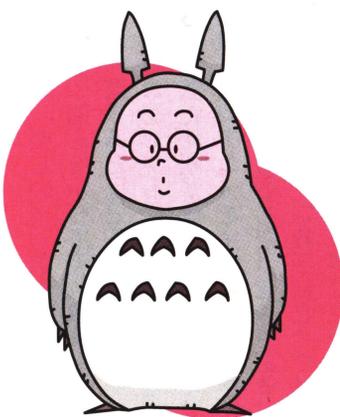
### ○正木 晃(まさき あきら)



一九五三年、神奈川県生まれ。筑波大学大学院博士課程修了。国際日本文化研究センター客員助教授、中京女子大学助教授などを経て、現在は慶応義塾大学で非常勤講師を務める。専門は宗教学。特に修行における心身変容や画像表現を研究。また、不登校・閉じこもり問題、宇宙開発、環境問題、精神医学的な領域などにも強い関心があり、各種の共同研究および実践を行っている。著書に『立派な死』(文藝春秋社)、『はじめての宗教学』(春秋社)、『密教』(講談社選書メチエ)、『チベット』(死の修行) (角川選書)、『チベット仏教図像研究』(国立民族学博物館)、『からだでつかむ仏教』(佼成出版社) など多数。

正木氏によるアニメ宗教学の講義は、本年十月には、早稲田大学オープンカレッジ「宮崎アニメ宗教学」にて全五回に渡って実施された(現在は終了)。また、来年四月からは日蓮宗池上實相寺([http://www.ikegami-jissouji.org](http://www.ikegami-jissouji.org/))の「寺子屋仏教講座」でも開講予定。現在受講可能なのは、NPOおんじゅの森主催の「彩・選・単塾」の「アニメ宗教学講座」。詳しいお問い合わせは、おんじゅの森事務局まで。

TEL 03-3477-1177  
FAX 03-3477-1199  
info@hinju-no-mori.or.jp



## 学生の学問入門に工夫を凝らした結果が、宮崎アニメだった。

『となりのトトロ』だったら、まずトトロの正体がクスノキの樹霊だと指摘する。さらにクスノキは「奇(く)すしい木」、すなわち「神々しい木」で、古代から日本人は聖なる樹木として崇めてきたと教える。その証拠に、飛鳥時代に作られた日本最初の木彫の仏像は、広隆寺の弥勒菩薩像を除くと、百済観音像や救世観音像をはじめ、ことごとくクスノキに彫られている。『日本書紀』の欽明天皇十四年の条にも、いまの大阪湾に流れついたクスノキで



「誤った信念」であり、「非科学的な迷

『フランダーズの犬』の源  
『読売新聞』二〇〇五年九月一日付  
によると、「何か宗教を信じているか」というアンケートで「信じている」は二十三%に対し「信じていない」は七十五%。「宗教は大切であると思うか」でも、「大切」三十五%に対し「そうは思わない」六十%だったという。確かに大学で宗教学関係の講義をしていると、学生は宗教に対して冷淡このうえない。彼ら・彼女らに言わせれば「宗教は心の弱い者の慰めや逃避」であり、マインドコントロールされた「誤った信念」であり、「非科学的な迷

妄」ということなる。  
しかしこうした学生たちも、宗教的なものを否定している訳ではない。例えば私は講義の初めの方の回で『フランダーズの犬』(七五年)のラスト数十分を学生と見ることが多い。私も含め多くの学生はかつて見た時の感動を思い出し、教室はシーンとなる。ではその感動の涙はどこからわき出てくるのだろうか。放火の疑いをかけられて疲労と空腹から死に至ったネロが可哀想だからだろうか？ 違うはずである。『フランダーズの犬』の感動は、善なる魂が必ずや天国に召されるといふ確信に基づいているはずである。そこには魂の不死、死後の世界の存在、そして義と認められた者が救われるという世界観が共有されている。そうであれば『フランダーズの犬』は、単なる児童虐待の話にすぎない。『フランダーズの犬』は明らかにキリスト教的世界観を背景にもっているが、こうした背景抜きでも学生は、このアニメに涙を流す。つまり宗教抜きの宗教性というものがある、このアニメはそうした宗教性を体現しているのである。

アニメは時として、宗教教団以上に宗教性を伝える媒体となりうる。だから宗教教団はわかりやすい布教の武器としてアニメを用いてきた。事実、宗教団体によつて製作され、明確な宗教的な意図を持つている教団アニメや、宗教者や聖典をモチーフとした宗教アニメは多数ある。オウム真理教の『超越神力』シリーズはビデオで幅広く布教に用いられ、幸福の科学の『ヘルメス 愛は風の如く』『太陽の法』『黄金の法』は東映系劇場で一般公開され、多くの観客動員を得たとされる。創価学会も関連団体のシナノ企画が教団史に関するアニメ『人間革命』十三巻を製作しているほか、池田大作名誉会長の創作童話をアニメ化し、その一部は地方局で放映されている。

一方、アニメ・クリエイターも自らの作品の主題なり世界なりに深まりと広がりを持たせるために、善と悪、運命、生と死などの宗教が扱ってきた主題を意識的、無意識的に援用してきた。例えば富野由悠季(『機動戦士ガンダム』シリーズ総監督)の『伝説巨神イデオ

ン』(八〇年)は、異星人と人類との宇宙戦を描きながらも、人知を超えたイデオンの「無能力(むげんちから)」と「メシア」と呼ばれる胎児の無垢なる意志との関わりがテーマとなっていく。悪しき心をもった生命体は宇宙戦争で根絶やしにされつつも、その魂は浄化され、メシアの誕生の祝福にあずかるラストは、各文明に伝わる千年王国思想をも彷彿させる内容となっている。また『アビルマン』(二〇〇二年)テレビ放映版ではなく、原作のラストを膨らましたオリジナル・ビデオ『AMON デビルマン黙示録』では、物語は人間の内的な悪魔性に焦点が当てられていく。これら「メシア」や「黙示録」という用語法からも制作者自身が宗教伝統を意識しているといつていい。

さらに仏教に深い理解を示した手塚治虫の『火の鳥』シリーズ(八六年)、新新宗教に分類されるGLAと関係のあった平井和正原作の『幻魔大戦』(八三年)、荻野真原作の人気コミックのアニメ化『孔雀王』(八八年)などは特定の教団とは関係なく制作されているが、人類に共有されている宗教伝統を背景とし、それが物語に奥行きをもたらしている。

■アニメと霊性(スピリチュアリティ)  
さらに宗教的な主題を、宗教教団や宗教伝統とも切り離れた形でアニメは伝えようとする。こうした作品群を、ここではスピリチュアルなアニメと呼ぶこととしよう。スピリチュアリティ

episode 3

アニメと霊性(スピリチュアリティ)

弓山 達也



とは、「自分の中や自分と他者との間で働いていると感じられる、自分を超えた何ものかにつながっている感覚(の質)」(※)などと定義されているが、かかるアニメは、宗教教団や宗教伝統とは切り離された形で、人間性や自分探しを注視し、明確な世界観や人間観を提起する。

人間性への注視でいうと、例えば『妖怪人間ベム』(六八年)は人間になりたいたい希求とそこからいまい見る人間性を描いたという点で、『ビノキオ』(四〇年)『鉄腕アトム』に連なり、これらの作品は特異なキャラクターを扱いながら、人間性という主題を秘めている。これと近接する主題として自分探しがあげられよう。『機動戦士ガンダム』(七九年)のアムロ・レイも、『新世紀エヴァンゲリオン』の碇シンジも、どこか頼りなげで、『マジンガーZ』(七二年)の兜甲児のような、それまでの巨大ロボ・シリーズの主人公のように苦難を乗り越え、ゴールに向かって成長するキャラクターとして設定されていない。むしろテクノロジの高度化におけるアイデンティティの流動化という、自分探し自体が主題となっており、彼らの彷徨いは『銀河鉄道999』(七八年)の星野鉄郎に通じている。

人間性に思いを凝らす一方、明確な世界観を描くこともアニメは得意とする。前述のように『フランダーズの犬』は、ある種の超越的な次元(天国や魂の救済)を前提としなければ、ネロの死は理解できない。『宇宙戦艦ヤマト』『風の谷のナウシカ』(八四年)は世紀末における人類規模の救済の物語であるし、『AKIRA』『GHOST IN THE SHELL—攻殻機動隊—』は近未来の新しい人間観を提起しているといっても間違いではない。また『もののけ姫』(九七年)『千と千尋の神隠し』のような宮崎駿アニメにはアニミスティックな世界観が前提とされ、そこに広範な共感を獲得している。

■スピリチュアル・アニメのこれから  
人類の文明の歴史において、多くの宗教が生まれ、滅びていった。しかしスピリチュアリティは表現や担い手を変えつつも持続してきたと私は見ている。現代人の宗教に対する嫌悪感や無関心とても、それは現存の宗教教団に向けられているもので、スピリチュアリティに対してのものではない。先のアンケートでは「神や仏にすがりたいと思ったことがある」は五十四%に達し、「ない」四十四%を上回った。宗教を「信じていない」人の中でも、「す

がりたい」は四十七%だった。そうした現代人が単に宗教教団に向かわないだけのことである。宗教に無関心な現代人は、宗教教団には冷淡でも、例えば宮崎駿のスピリチュアルなアニメは否定しないだろう。

スピリチュアルなアニメのすそ野は広く、一般のアニメと分かち基準も難しい。しかし宗教性が教団の枠を超えて、サブカルチャーに横溢する現在、アニメが宗教団体の代替物になるとまではいわないが、スピリチュアルなアニメが我々の宗教性を語る上で重要な位置を占めるようになることは言うまでもない。

※スピリチュアリティとは何かについて、また宗教から切り離された形でのスピリチュアリティについては榎尾直樹『スピリチュアリティを生きる』(せりか書房、二〇〇二年)や伊藤・榎尾・弓山『スピリチュアリティの社会学』(世界思想社、二〇〇四年)やスピリチュアル・ナビゲーター(<http://www.sphinaver.net>)を参照。

○弓山 達也(ゆみやま たつや)



一九六三年、奈良県生まれ。大正大学人間学部助教授。財団法人国際宗教研究所やNPO法人「くもくらし」の役員をつとめ、大学の知と宗教界や地域社会での実践の架橋・越境・協働を企てている。著書に『天啓のゆくえー宗教が分派するとき』(日本地域社会研究所)など。HPは、<http://my.sphinaver.net/yumi/yama/>

## 胡蘭夢

「仏教アニメ」というと、教団が若年層向けの教化材料として制作し、聖典の象徴化・開祖や祖師方の御一代記などがその常套だが、その点、一九七六年に『てらスクール』で通年連載された同名マンガをアニメ化した『テレビパスクマラー宇宙の旅』(一九七九年)は異色だ。

西暦三〇〇〇年、地球の荒廃とエネルギー危機を救う六つの珠(奉仕・反省・忍耐・努力・禅・知恵)を手に入れるため、時空をこえて宇宙の彼方へ旅立つ少年テレビパスクマラーの冒険譚。「少年・宇宙・冒険」という一九八〇年前後のアニメ王道の世界観に仏教的な意匠を凝らした内容は、当時の宗門のイメージ戦略を志した作者側の労苦が伺われる。独鈷、授菩薩三摩耶戒陀羅尼、猊、冒険の佳境で突然の入定…。オリジナルの主題歌まで作られる力の入れようだ。

ちなみに、クマラーの声は、先日『ドラえもん』のび太役を降板された小原乃梨子さん。クマラーとは梵語で「少年」という名詞。テレビパスクマラー…清田益章!? 際どいネーミングではある。

現在でも宗務庁のビデオライブラリーとして貸出可能。お問い合わせは教化部企画研修課(☎〇三・三四五四・五四一五)まで。

## スピリチュアルなアニメが、 我々の宗教性を体現している。



# ぴーぷる

平和な社会を築いていくために

浄土真宗本願寺派 覚成寺副住職・大平一誠師

寺の「ぴーぷる」は、覚成寺フレンズなど、既存の活動範囲を越えてさまざまな社会活動を実践されている大平一誠さんを紹介します。お寺で育ち、僧侶というシールに生きてきた彼の僧侶観、仏教観を尋ね、現在の活動にどのように結びついていったのかを聞いてきました。

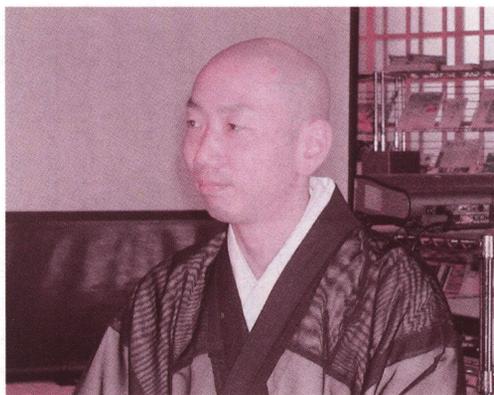
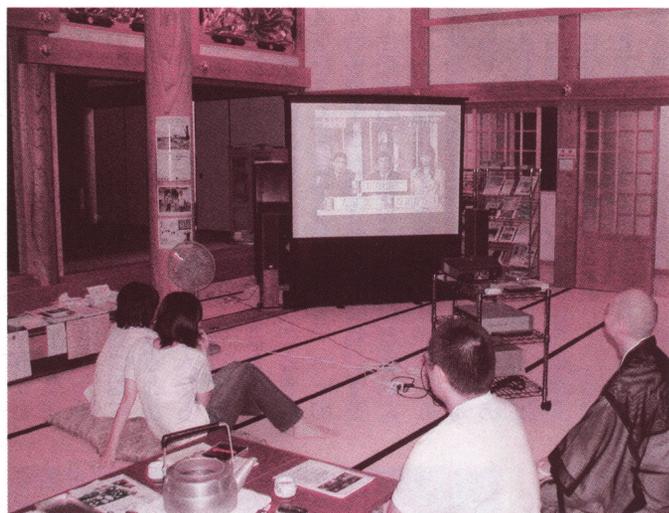
—大平さんはもともとお寺にお生まれですか。

【大平】 いいえ。覚成寺には父の兄がいました。でもその兄が寺の跡を継がないということになって、父が僧侶になって寺に入ったんです。ですから僕は物心がついた小学校に上がる時分に突然お寺の子になったという感じなんです。それから多くの他の師弟もそうだと思うんですけど、お葬式とか法事に付いて行かされて育ちました。そんな状況でしたから、私の場合将来についても特に就職先を探すわけでもなく気ままに生きてきました。

—私がお寺に生まれたのですが、境遇は大平さんと同じです。僧侶という生き方に葛藤みたいなものはありませんでしたか。

【大平】 大学から戻ってきて、寺の手伝いをするようになるんですけど、二十歳中

覚成寺フレンズ



大平一誠師

盤くらいまで自分の意思で僧侶をやっているって感覚じゃなかったですね。その当時は、午前中だけ外回りや月参りを終え、午後には暇になり昼寝をするなど好きなことをしていました。やがて結婚しましたが、若さゆえに背伸びをし、寺の運営方針で住職ともめ、結局彼女とは別々の道を歩むようになりまして。それからは墮落の数年間を過ごすわけです。二十代後半ですけど、ただ日々を浪費していたと思います。そしてついに爆発したんですよ。何でもレールの上ののっていくような都合のいいものじゃないぞっていうことで、よく住職とぶつかり合う時期がありました。

—それからご自身の中で僧侶観というのはどう変わってきましたか。

【大平】 ここでそれまであった僧侶観みたいなのが一回壊れて、それからさまよう時期がありました。そんな中で出会ったのが、浄土真宗の仏教青年会で取り組んだ「同和問題」だったんで

寺院用仏具・仏壇・製造販売  
曹洞宗梅花流法具販売指定店



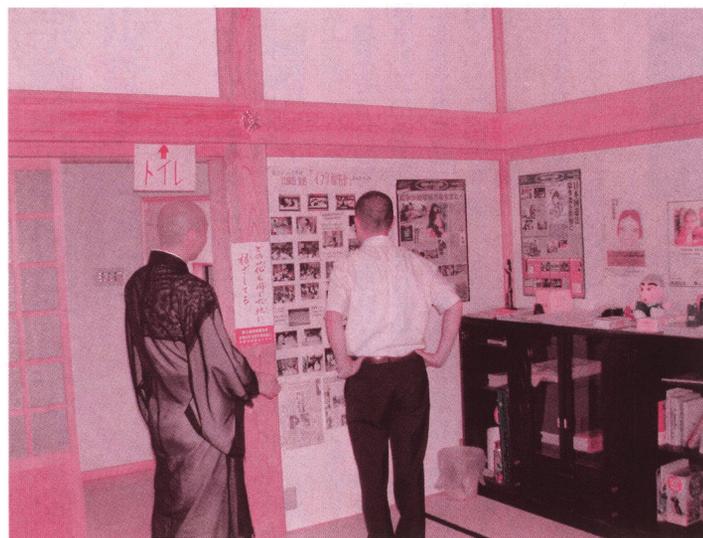
# ほう 放 光

本店・工場 〒940-0825 新潟県長岡市高畑町617番地  
新潟店 〒950-0941 新潟市女池2丁目2-11  
川越店 〒350-0036 川越市小仙波2丁目20-1  
高崎営業所 〒370-0046 群馬県高崎市江木町1179-2  
長野営業所 〒380-0911 長野市稲葉1980-1

<http://www.hoko-butugu.com/>

☎(0258)33-5644  
☎(025)280-1550  
☎(049)227-7666  
☎(027)324-3721  
☎(026)222-3811

す。それまで自分の考えてきた仏教は、ただ法事とかの場面で法話をするというように教えを伝えるというだけのものだったのですが、差別問題にぶち当たったときに、こういうことが今もまだ残っていて、被差別の人たちの生の声を聞いたこともなく、自分は何をやったのかということに疑問を感じ始めました。そんなことを考えているときにアメリカで九・一一の同時多発テロが起きたんですね。そこで世の中の不条理つまりテロとそれに対する報復に対し、自分は仏教者として命を尊ぶ教えを伝える役目がありながら、無関心だったという気がききました。先ほどの差別の問題と、世界の動きとが同時期に自分の中に入ってきて、この真実に自分が生きていると思つたとき、なんとか今の世に自分の言葉で発信していかなければとすごく思つたんですよ。それが本当に自分でお坊さんになろうと思つたきっかけだったんですね。それまでははつきり言つて職業という感じで、袈裟を着ているときだけお坊さんだったのだと思います。頭を思い切つて剃髪したのもそのときなんです。



イラク戦争の悲惨さを伝える資料室

に、仏教は応えるだけのものがあると思ひました。僕にとつて僧侶になるというのが二回あったと思います。一回は親の言うままになった家業としてのお坊さん。それから十数年きて今度は自分で選んでやっていこうとしたお坊さんですね。

※1 「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」 イラク戦争で被害に遭っている子どもたちへ主に医療分野での支援を行なう。医薬品や医療機器の寄付される。

※2 「クマツプ」 日本国憲法九条の平和理念をモチーフにして作ったオリジナルソングを広めることにより、平和な世の中を目指すムーブメントを発信していく取り組み。オリジナルCDの販売収益は、「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」などに寄付される。

【大平】 最初は「覚成寺フレンズ」での仏教青年会活動が主でした。それを脱したのはイラク戦争です。あのときに、いても立つてもいられなくなって、ピースウォークに出かけて行つたんですよ。そこで宗教者なんていないだろうと思ひ期待をせずに行つたら、南無阿弥陀仏つていう旗を持って歩いていける人とか、キリスト教も仏教も関係なく宗教者がけっこつたんですよ。繁華街では一刻も早く戦争が終わるようにと祈りの集いをやっていましたので参加したら、同じようにお寺の枠を越えて外に出ていたお坊さんたちがいたんです。これは大きな発見でした。そんなときイラクに行つてきた弁護士の小野万理子さんが話をすると、こので聞きにいったのが「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」へ関わる発端だったんです。この小野万理子さんが日本でイラクの支援グループを立ち上げたというので仲間に入れてもらいました。私たちが目にするメディアからの情報とは反対に、現地に行つた人たちがイラクの人たちからも直接戦争の様子を聞くことができ、たいへんな状況を知つたのでこれはほっとけないと

―九条を守るということについて、今の日本を見た場合悲観的に考えたことはありますか。

【大平】九条は守るっていう代物ではなくて、目指すもの、活かすものであったと思うんです。今までは改憲と護憲が綱引きをしてきただけであって、全然活きていないと思うんですね。それは自分の中で仏教を同じようにしてきたこととリンクするんです。それから地元でできた九条の会に世話人として参加するようになったんですけど、いざやってみると、なかなか思うように活動の輪が広がりました。そこで音楽で九条の理念を表現したらどうかと考えたんです。具体的には、「憲法九条」を言わずに笑顔で「未来の子どもたちのために」というような世界共通語のようなアプローチで発信したらと考えました。世界中の人の幸せを願った仏教もそうですが、世界中が平和になるにはどうしたらいいのを考えていけば、おのずと武器を取ることはナンセンスだよって当然そこを帰結するわけで、そうなるって回り回って九条にたどり着くんじやないかっていう方法論ですよ。そして「クマツプ」っていうふざけた名前ではありませんが、歌って踊るアイドルのノリで楽しくやろうとしたわけです。

―何かをしたいけど何をしたいかわからないと考えている青年僧も多いと思いますが、アドバイスがあればお聞かせ下さい。

【大平】僕の場合は不思議と差別のことに合ったり、九・一一が起きたり、新しい伴侶との出会いがあったりという縁がありました。それはきつかけだとしても、取りあえず出かけていく

ことじゃないかと思ひます。子どもはままた社会に飛び出して行く感覚で構いません。そうすることで何か引つかかってくるっていうか、自分が求めていかなくても相手のほうからつながりをお寺はあとから出来てきたものじゃないですか。最初はこの身一つだったはずだと思ひます。でも今は最初はどうやってここに人を呼ぼうかとなるから、なかなかうまく回っていかないと思ひます。あとは、浄土真宗だから極楽浄土とかいろんなキーワードがありますけどキーワードにあんまりこだわらなくて活動してみるとか、あるいは、自分たちと教義的には違っていないイベントにも、それはそれとして参加してみるのもいいかも知れませんが、それは私が感じたのですが、自分から枠を作ってしまうとなかなか新しい発想ができないと思ひます。維持していくことはできるかもしれないですけどね。



パートナー(妻)のゆう子さんと

## いんたーみっしょん

### ―浄土のムーンウォーカー、to be with you―

覚成寺副住職、大平一誠師。またの名を、マイケル・シャクソン。

あるときは即ち匂い立つ古式ゆかしき玲瓏の青年僧、またあるときは即ちブラックレザ―を身に纏って殺活自在。須弥壇上より喧騒の巷間に至るまで、四衆接化の妙色身を現す。あるいは空中の鳥の如く、あるいは水中の魚の如く、機に応じ変に應ず軽妙のムーンウォークは、It's so cool!!、無為にして為す妙行なり。千変万化の方便力で、Go!! Michael, go!!

「…9・11テロとか、彼女との出会いとか…色々重なって起きて…」詳しくは本編に譲るが、これはシャクソンの梵天勧請に当たるくだり。「彼女との出会い」とは、パートナーであるゆう子さんとの出会いをいう。彼女がマイケルにとって、どんな存在なのか、取材していたらよく分かった。浄玻璃の鏡であり、点火プラグであり、キャブレターであり…。まさにマイケルの「EN×EN」。傍らに「同志」を得て、Michael Shakuson, on the stage!!

ゆうさんは、マイケルと出会う前は、教会に通っていたようだ。だから、お寺に入ってみて、驚くことも多かった。その閉鎖的な体質とか。たとえば、ホームレスの方が来たら、教会なら施しするのが当たり前。でも、お寺はどうか…。我々にしてみれば、痛いところ。でも、彼女のお寺へ寄せる期待もヒシヒシと伝わってきた。誰もが救われる宗教、それが仏教。とても楽になれたようだ。

彼女をボンテンというのもよいが、言葉の響きがどうも……やはり、ここは花に喩えてみたい。だって、シャクソンときたら蓮華でしょう。

ホットな二人のstand by me。永劫不滅の遊戯三昧は続く。

The show must go on!!

(貴)

#### ●覚成寺フレンズとは？●

覚成寺の仏教青年会を『覚成寺フレンズ』といいます。

発足は二〇〇二年四月で、お経教室(土曜学校)のイベント運営やボランティア活動などを行っています。また平和問題や差別問題など、社会のさまざまな問題にも取り組んでいきます。十一頁の様子は、TV番組「爆笑問題のすすめ」の視聴会。ゲストの森達也さん(オウム真理教取材して『A』『A2』という二本のドキュメンタリー映画を発表したことで知られている映画監督

督)が「葛藤のススメ」というテーマでお話していたものを、フレンズの仲間で見ました。その後はディスカッションを行い、葛藤することについてみんなで考えました。

覚成寺URL

<http://www.kakushoji.com/>

くまじ

<http://9map.net/>

セイブ・イラクチルドレン・名古屋  
<http://www.iraq-c-gj.jp/>

台風十四号災害における被災者の方々がたに對して、衷心よりお見舞い申し上げます。被災者の方がたの健康回復と、一日も早い生活の復旧を心より祈念申し上げます。

— 全国曹洞宗青年会 —

## 台風十四号災害復旧ボランティア活動状況報告

台風十四号は、平成十七年九月四日から六日にかけて九州地方に甚大な被害をもたらしました。九州曹洞宗青年会（以下九曹青）では、台風通過中より九州各県の曹青会会長を通じて、電話連絡によって災害状況の確認、情報収集を行ってまいりました。

その中で各報道機関でも報道されていたように、宮崎県・大分県・鹿児島県にて被害が出ており、宮崎県曹洞宗青年会（以下宮崎曹青）より被害甚大との報告を受けてまいりました。

台風通過後数日で各地の被災状況の全容が見えてくると、各地でボラン



橋梁2箇所において、橋桁が流出した高千穂鉄道

ティアセンターの開設が始まりました。Webや報道機関の情報を収集し、宮崎県を中心に九曹青としての復旧作業（人的支援）の方策を考慮してまいりました。当時九曹青が把握していた情報では、ほとんどのボランティアセンターの募集は県内或いは当該市内ボランティア要請しがなく、土曜日、日曜日のみの開設でありました。つまり、被災者でもある現地の宮崎曹青の協力なしには県外からのボランティア活動はできない、それも土曜日、日曜日のみしか活動できないという状況でありました。そのような状況の中で、宮崎曹青会長松田俊英師に宮崎県内のボランティアセンターへ問い合わせをしていただき、平日の復旧作業にボランティア登録できる場所を確認していただきました。

### 九月十一日(日)

午後七時頃、宮崎曹青の松田会長より北方町災害救援ボランティアセンター（宮崎県東臼杵郡北方町）が、九月十二日(月)以降、平日もセンターを開設し、ボランティアを募集するとの連絡を受けました。その連絡の中で松田会長より「ボランティアとして復旧活動に協力していただければありがた



大活躍した軽トラまでお貸しいただいた吉祥寺様。朝の出発風景

い」との依頼を受け、その旨を午後九時頃、九州各県各青年会の会長宛に協力要請の電話連絡をしました。これに平行して財務担当者・監事の承諾を得て九曹青ボランティア基金を初動資金として拠出することとしました。

### 九月十三日(火)

台風十四号災害に対する九曹青ボランティア活動情報掲示板（ウェブログ）を佐賀県曹洞宗青年会の協力にて開設。同日午後には宮崎県外からの参加者七名は現地に到着、北方町の吉祥寺様（尾田正明住職、元九曹青会長）に宿をご提供いただきました。

### 九月十四日(水)

午前八時三十分、北方町災害救援ボランティアセンターにて受付、当日合流した参加者と合わせ二十六名、四ヶ所にわかれ九時より活動を開始。その中の一ヶ所は氾濫した五ヶ瀬川のすぐ脇にある薬局で、最大二メートル強の浸水があった所で、陳列ケースや窓、サッシなどの洗浄、汚泥の除去、浸水した壁や床など、廃材となつてしまったものを搬出する作業でした。昼食休憩をはさみ、午後四時まで活動を行いました。活動を終えボランティア

センターへ戻り活動報告を行い、引き続き現地に残り活動を続ける県外からの参加者六名は吉祥寺様に宿を借りました。その後、午後四時五十分過ぎにボランティアセンターより、明日十五日の支援要請があり、明日も引き続き復旧作業に当たることが決定。

### 九月十五日(木)

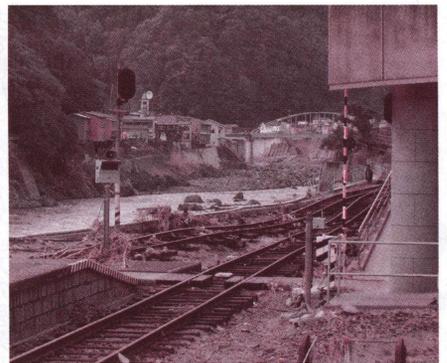
午前八時三十分、北方町災害救援ボランティアセンターにて受付、当日合流した参加者と合わせ二十四名、三ヶ所にわかれ九時より活動を開始。その中の一ヶ所は近隣の延岡市での活動。ここは被災してから既に十日が過ぎようとしているにもかかわらず、被災時のまま、ほとんど手つかずの状況でありました。畳の上に堆積した汚泥、汚れたままの家財道具など、改めて被害の甚大さを思い知らされる状況でした。昼食休憩をはさみ、午後四時まで活動を行い、ボランティアセンターへ戻り活動報告を行いました。

引き続き活動を行うべく数名が待機しておりましたが、午後五時過ぎに北方町災害救援ボランティアセンターは、本日を持ってボランティアセンターを閉鎖し、それに伴いボランティアの募集を中止するとの決定がなされました。この決定を受け宮崎曹青との協議では、いったん現体制での活動を打ち切らざるを得ない状況との結論に至りました。その後、二日間に亘り九州各県より延べ五十名が参加した活動の暫し打ち切りを決定し、その旨、記述の掲示板にて告知し終了いたしました。

尚、今回の災害救援活動時には、佐賀県曹洞宗青年会のホームページの掲示板をお借りいたしました。このシステムを活用することにより、刻々と変化する現地の状況、ボランティアを

含めたさまざまなニーズの把握・伝達にはたいへんな威力を発揮することがあらためて証明されたように思われます。今回のシステムは携帯電話からも閲覧が可能だったことから、移動中であつてもそれらの情報を必要な時に取り出すことが可能でしたし、書き込むことも可能でしたからなおさらでありました。今後は、災害発生時よりこのシステムを活用し、随時情報を提供・共有することにより、次の動きが予想出来、迅速で的確に、そして多くの救援活動を行うことができるのではないでしょう。

述べ、被災地、そして被災地の方がたの一日も早い復興をご祈念申し上げます。  
 〈全曹青九州管区理事 小島 宗彦〉



濁流で枕木が流出し、大きくゆがんだ線路（高千穂鉄道・日之影温泉駅付近）

### ボランティア委員会インサイドレポート

◇九月十四日

羽田より朝一番で宮崎に向かう。午後一時前、現地・北方町に到着。同町災害救援ボランティアセンターにて受付後、即時支援活動現場に移動。北方町役場近所の二メートル床に浸水した薬局の現場にて、九曹青会員（全県より参加）、福岡・明光寺専門僧堂の皆さんと共に作業にあたる。床は、基礎部分の泥除去、片付け、清掃等の作業にあたり、午後四時に終了。同町災害救援ボランティアセンターに戻り、明日の応援要請に来ていた延岡市の社共スタッフから状況を直接伺った後、宿泊地である吉祥寺様に移動する。（宿泊者十七名）

◇九月十五日

新たに到着した大分青年会の方がた、北方町災害救援ボランティアセンターで合流し、昨日応援要請のあった隣市・延岡市をはじめ、方々の現場に分かれ復旧支援作業。作業の振り分けは地元・宮崎曹青が担当して下さいました。河川近くの城小中学校で、約二メートル浸水した体育館の片付け・清掃にあたる。今回の復旧支援活動に参加された青年会員の中には、長年土木作業に従事された方があり、バックフォアの操作等でその経験を遺憾無く発揮されていた。

正午、北方町災害救援ボランティアセンターに戻り昼食。午後、新たに被災現場に向かう方がたを見送り、その後、宮崎市内にある宮崎市災害ボランティア本部へ市内の被災状況調査に向かう。そこで宮崎市の社共代表の方ともお会いし、状況を伺う。三連休の十九日でも活動終了予定。台風の影響は例年よりも甚大であったが、活動終息直前ということも、皆やはり安堵の表情をみせていました。

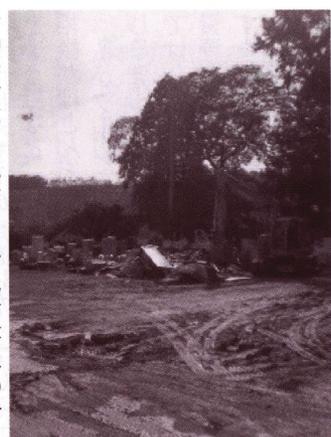
最後に、この度の復旧支援活動に際しまして、宿泊場所や食事の提供をはじめ、さまざまな面でご協力下さいましたご寺院様と関係者各位、また、後方支援をしていただきました全国のご寺院様・青年会の方々に厚く御礼申し上げます。

◇災害多発の昨今、初動時の明確な体制作りが急務であると感じ、全国の評議員・理事合同参加のボランティア研修会を現在企画中です。願わくは、吾我・名利を離れ、観無常・自他一如を旨に、広い視野で今後のボランティア活動を推進していければと存じます。

〈全曹青ボランティア委員長 米澤 智秀〉

### 活動時の写真

携帯電話のカメラによる撮影のため見づらいかと思いますがご了承ください。



活動場所近くに設けられた被災ごみの一時預かり所（9月14日）



ボランティアセンターにて受付をする宮崎曹青会長・松田俊英師（9月14日）



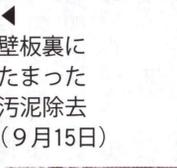
北方町災害救援ボランティアセンター



一見問題ないような壁板をはがすとそこには汚泥がたくさん堆積していました（9月14日）



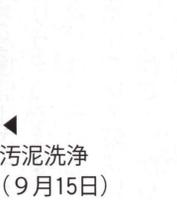
汚泥除去、洗浄作業（9月15日）



壁板裏にたまった汚泥除去（9月15日）



汚泥搬出（9月15日）



汚泥洗浄（9月15日）





# 精神医療の現場から(一)

## 僧侶とソーシャルワーク

全曹青 青少年教化委員会委員 秋吉龍成

現在、私は精神保健福祉士の資格を有し、都内の精神科診療所でソーシャルワーカーとして精神障害者の自立と社会復帰を支援しています。具体的な仕事の内容は、精神科デイケアで料理などのグループワークを指導するほか、精神科訪問看護で患者さんの自宅を訪問し、心理面の悩みを「聴く」として、直面している生活の問題を解決する方法の指導をしています。

そもそも、私は初めから精神障害者福祉の分野に進もうという気持ちはありませんでした。この道の勉強をしようと思ったのは、檀信徒さんとの関わりの中で、こちらが期待されていることと、こちらができることにギャップがあるのではないかと疑問を持ったことがきっかけでした。檀家さん宅でのご供養の後などは特にそうなのですが、事の軽重を問わず我われは何らかの相談をされることが少なくありません。これを読んでくださっている諸兄の中にも、「世間の目が気になるけど、和尚さんならば話せる」と相談された経験をお持ちの方もおられるのではないのでしょうか。法話の他に何を話せるのか。祖山の安居を終えたとはいえ、社会経験といえはアルバイト程度しかしていない自分。その自分より

もはるかに人生経験の豊富な方がたからのさまざまな相談を受けて、何を助言することができようか。私は、自身の意見は持っていないもそれに何の裏づけもないことに大きな不安を感じたのです。

「和尚さんに相談してみてもよかったです」と感じてもらえるような相談相手になれるようにするためには、どのような勉強をすればいいのだろうかと考えていたとき、初めに学ぼうと思ったのは、終末期医療や脳死・臓器移植などの問題を扱う生命倫理学でした。「生死」と直接関わる僧侶という専門的な立場を活かすうえで、何か得るものがあるのではないかと考えたことがその理由でした。実際ホスピスの医師と話をしたり、病に伏せている患者さんやその家族に会ったりしましたが、今度はそこで人の話を「聴く」という技術を習得することの必要性を感じました。そしてさらに、共によりよい生活を営んでいくための助言ができる社会と関わっている僧侶を目指したいという目標を持ったとき、精神保健福祉士という資格の存在を知りました。

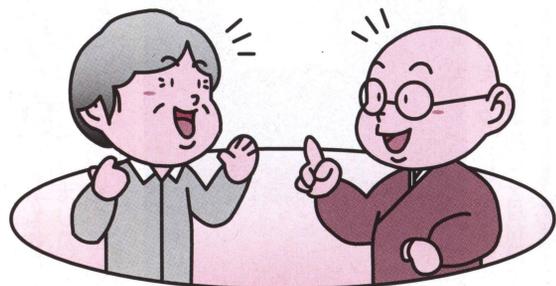
現在の話に戻ります。私が精神科の職場で最も魅力を感じているのは、精神科訪問看護でのソーシャルワークで

す。主治医の指示に基づき精神障害を持つ患者さんを訪問し、服薬管理や生活状況を把握することが主な内容です。一回あたり三十分ほどの訪問時間ですが、問診以外のほとんどの時間は雑談に費やしています。障害の特性ゆえ、実際に偏見を持たれているか、または偏見を持たれていると思い込み、地域社会で孤立した生活を送っている精神障害者にとって、安心できる話し相手がいるということは社会生活のリハビリテーションになります。雑談を積み重ねることで、患者さんは次々と生活上の問題についての相談をしてくるようになります。例を挙げれば、「息子が最新型テレビを買ってくれたが、使い方がわからない」という話や、「公共サービスについて役場の人から説明を受けたものの理解ができなかったため、制度を利用出来ずそのままになっている」という話など、ごくありふれた内容の相談がほとんどです。

の手続きを支援するのみならず、今は理解できるまで役場の担当者に説明してもらっても良いということを知らせませす。

既述したように、このような相談を受ける場面は、私たちと檀信徒さんとの関わりの中でもありうるのではないのでしょうか。お茶を啜りながらの雑談の中で口にした相談事について解決に向かうような助言を「和尚さん」から聞くことができたとなれば、「和尚さんに聴いてもらえてよかった」と感じてもらえるのではないのでしょうか。

現在の仕事をしながら感じるのは、ソーシャルワークと僧侶としての仕事に共通点が多いということとです。僧侶として社会と関わっていくうえで、皆さまの参考にしていただけるのではないかと思うソーシャルワークの実例を、次号から紹介していきたいと思いません。



# 智慧ぶくろ

## 読みやすい新聞をつくってみよう(第二回)

前回に引き続き、「そうせい新聞(仮題)」の作成を通してワープロソフトの基本的な機能を紹介したいと思います。今回もウインドウズのワープロソフト「Word(ワード)2003」を例に説明していきます。(以前のバージョンも基本的には変わりません)今回は横書きで作成した文書を縦書きに、三段組みにするとところで説明しました。今回はその文書に「テキストボックス」を用いて表題を付けようと思います。

### 1、テキストボックスを配置する

メニューの「挿入」→「テキストボックス」→「縦書き」をクリックします。すると今まで矢印だったマウスカーソルが十字の形になりますので、ドラッグ

&ドロップ(マウスを左クリックした場所を始点として左ボタンを押したままマウスを動かすことにより好みの四角形を作ることが出来ます。ボタンを離して完了です。)でテキストボックスを作りまます。テキストボックスをクリックするとボックスが選択状態(枠が太く表示され、上下左右斜めの八方向に白い点が現れます)になります。白い点をドラッグすることによってテキストボックスのサイズを変更することが出来ます。また、枠の部分をドラッグするとテキストボックスの位置を移動できます。

今の状態では文章がテキストボックスの下に隠れていますので、文章とテキストボックスが重ならないように設定したいと思います。テキストボックスをクリックして選択状態にした後、メニューの「書式」→「テキストボックス」をクリックすると、



図1

「書式」→「テキストボックス」をクリックすると、図2のダイアログが開きますので、「レイアウト」タブ(図3)をクリックします。「折り返しの種類と配置」を「四角」に設定します。すると、今まで隠れていた文章がテキストボックスの外に配置されるようになります。

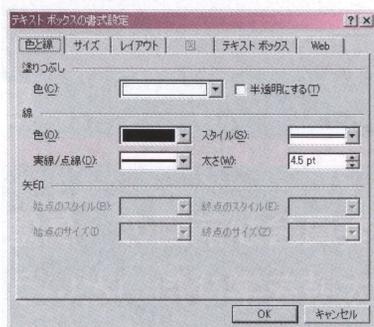


図2

### 2、テキストボックスに文字を入力する

テキストボックス内をクリックすると、カーソルがボックス内に移動します。図1の「そうせい新聞」の表題を例に説明しますと、まず「そうせい新聞」とキーボードで入力します。その後「そうせい新聞」の文字部分をマウスドラッグして文字を反転させ、メニューの「書式」→「フォント」をクリックして書体フォント・スタイル・サイズ等を変更した後「OK」ボタンを押して決定します。また、適度に文字間にスペースキーで空白を入れて文字を見やすくします。

この状態で文字が右上に寄っている場合がありますので、文字の位置を調整したいと思います。メニューの「書式」→「テキストボックス」をクリックして「テキストボックスの書式設定」ダイアログを表示させます。「テキストボックス」タブ(図4)をクリックして文字の上下左右の値(この値はテキストボックスの外枠から文字までの間隔を表します。)を変えて位置を調整し、「OK」ボタンをクリックして決定します。

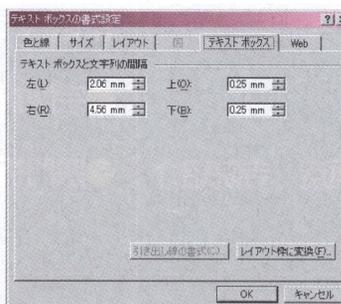


図4

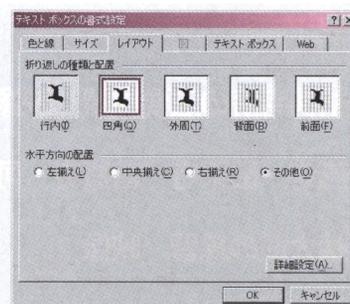


図3

### 3、テキストボックスの枠線を変える

「テキストボックスの書式設定」ダイアログの「色と線」タブ(図2)をクリックします。「線」の項目の「スタイル」から好みの線種を選択します。「OK」ボタンを押すとテキストボックスの枠線が変更されて見栄えが良くなります。

「そうせい新聞」の表題の下にも同様にテキストボックスを使って発行日を作成すると図1の完成です。

次号では図の入れ方、ページ枠の付け方を紹介して、「そうせい新聞」を完成したいと思います。

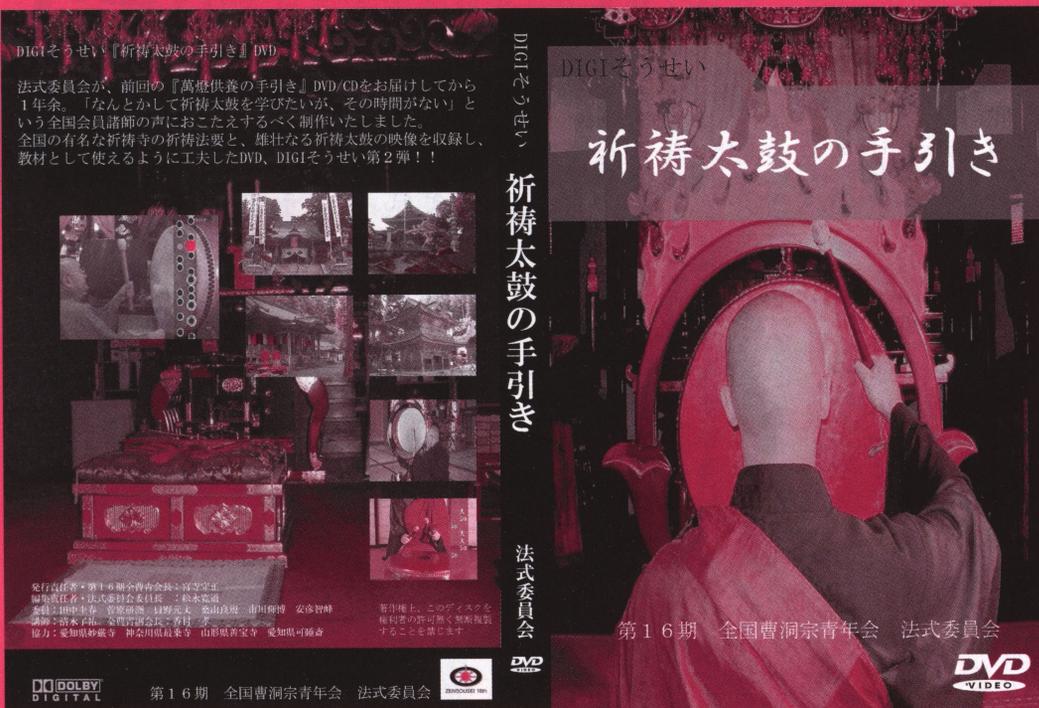
(記事担当) I-T委員会

DIGIそうせい第2弾

# 祈禱太鼓の手引き

法式委員会が  
お届けします

『祈禱太鼓を習いた  
いけれど時間が  
ない』という全国  
会員諸師の声をカ  
タチに！



法式委員会が前回の『萬燈供養の手引き』をお届けしてから一年余。  
祈禱太鼓を学びたいという全国会員諸師の声におこたえするべく制作いたしました。  
全国の有名な祈禱寺の祈禱法要と、雄壮なる祈禱太鼓の映像を収録し、  
教材として使えるように工夫したDIGIそうせい第2弾！

【特徴と内容】

- 各祈禱寺院の法要風景 映像
- 妙巖寺・最乗寺・善寶寺・可睡齋 寺院紹介
- 祈禱太鼓の練習 映像
- 様々な祈禱太鼓の様子 映像

【付録マニュアルコンテンツ】

- 宗門祈禱法要差定
- 宗門祈禱太鼓の考察

【予定頒布価格】

一部 1,000円

【申し込み方法】

11月下旬にご案内する  
予定です。

# 世界の重層信仰(二)

## 『シンクレティズム』とは？

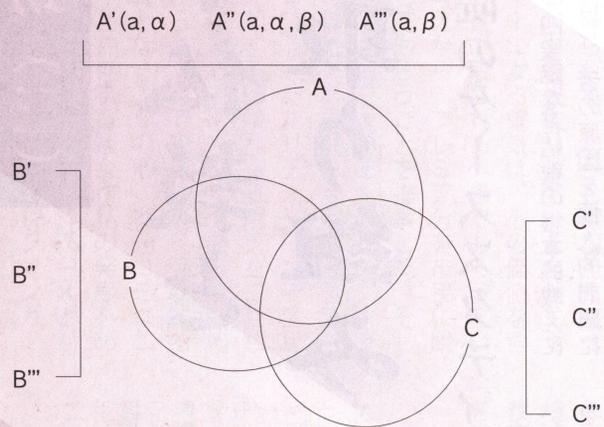
鈴木健郎

「日本人の信仰態度は節操がない」という言葉を、我々はしばしば耳にします。確かに「七五三は神社、結婚式はキリスト教、葬式は仏教」という状況はありますし、仏教内部に目を移せば、形式的には、仏教、神道、道教、儒教などの混合体であることは事実でしょう。しかし、このようなあり方は、本来に日本の特殊な事情なのでしょうが。また、そのような事情について、簡単に是非を判断できるものなのでしょうか。本企画では、各国の宗教または各宗教の現実のあり方を紹介いたします。日本仏教に対する批判は何かと多いですが、相対的に見ることににより、現状の中で理念を生かす方途を探る一助となるのではないかと考えます。

このコラムでは「世界の重層信仰」というテーマで、何名かの宗教研究者が順番に、各地の多様な宗教現象を紹介してゆく予定です。今回は第一回ですので、具体的な現象を見る前に、まずは「重層」とか「習合」という言葉が何を意味するのかについて考えてみましょう。

ある宗教や信仰を観察し、そこに複数の異なった宗教伝統の要素が「混ぜられている」と見えるとき、こうした現象やその過程をよく「シンクレティズム syncretism」と呼びます。ごく単純に考えると、「A教」「B教」「C教」といった複数の「宗教」があり、それが重なりあった部分が「シンクレティズム」といえるそうです(図を参照してください)。

さい)。しかしよく考えてみると、「A教」自体も、純粋で不変な現象ではありません。五百年前、百年前、現代(あるいは百年後)といった時代による差異と変化、あるいは同じ時代でも地域や派による差異があるはずですが、これらの中に共通の要素があると判断してそれを「A教」という枠組みに一括しているわけです。図でいえば、A、A'、A''はそれぞれ少しずつ異なった要素(図の $a$ ・ $\beta$ )から構成されているけれど「a」という要素(それは信仰対象、中心教義、共通の開祖なども知れませんが、それらを結合したセットかもしれない)を共通に持っている。つまり純粋な



「A教」というものは、(当事者あるいは外部の観察者による) 理念的な存在ではないわけで、A、A'、A''の「混合」あるいはその総称である、ということになります。このような細分化はやろうと思えばどこまでも続いてゆくわけですが、概念設定のレベルは、議論の目的に応じた仮設的なものにならざるをえません。「B教」や「C教」についても同様のことがいええます。そう考えると、すべての歴史上の宗教現象は多かれ少なかれ「シンクレティズム」であることにもなります。

様々な「宗教伝統」の中で行われてきた、正統と異端、破邪顕正などに関する膨大な論争の蓄積は歴史的事実として押さえる必要がありますし、相対的な意味での「純粋」形態と「混合」形態を便宜的に区別することも可能で

すが、これまでの歴史で、「混ぜていく」雑多で低級、「混ぜていない」純粋で高級という価値判断が伴いがちであったこと(特に「民間信仰」や「新興宗教」という枠組と結合しがちでした)を考えると、こうした区別の原理的な相対性は意識されるべきだといえるでしょう。一方、意図的・積極的に「シンクレティズム」が進められる場合もあります。日本における本地垂迹説の成立、キリスト教のエキクメニズム、中国宗教で宋代以降顕著になる儒教仏教道教的「三教一致」志向、万教帰一を主張する新宗教、あるいは近年のニューエイジ運動などです。もちろんこれらには、反対の立場からの厳しい批判も多く起こってくることにあります。

こうしたことを押さえたうえで、次回以降では、より具体的に「世界の重層信仰」の様相をみてゆくことにしたいと思います。

○鈴木 健郎(すずき たけお)  
一九八七年東京生まれ。東京大学大学院博士課程修了(宗教学)。博士(文学)。主に中国宗教史を研究。専修大学非常勤講師。

次回は、北沢裕先生に、キリスト教における重層信仰について論じていただきます。キリスト教などの一神教といえば、信仰に対する規制が厳しいようなイメージがありますが、実際のところはどのよう

# 日本のエンゲージド仏教と

## 新たな取り組み

### 寿光院のケーススタディ

#### ◆現世での浄土を目指す

前回（一二九号所収）は、曹洞宗の宗派による仏教環境運動を紹介した。しかし曹洞宗のほかにも多くの僧侶と寺院が帰属教団や産業団体と一線を画したかたちで環境問題に取り組んでいる。本号ではそうした代表例の一つとして、浄土宗寿光院住職の大河内秀人の活動を紹介する。一九五七年生まれの大河内は日本におけるエンゲージド仏教の先駆者である。寿光院は一六一七年に創立され約二百五十世帯の檀信徒によって支えられている。しかし、大河内は葬式仏教に安住する生活をあえて拒み、社会・環境問題への関心を強めた。そして、「日本国際ボランティアセンター」「アーユス」「国際子ども権利センター」等、多くの運動に携わるかたわら小冊子等の出版を

続けている。これらの団体は仏教的視野を有するものからNGOまでその性格は多種多様であるが、国内外を問わず社会福祉事業に貢献している。

大河内は、長年にかけて、東南アジア・中近東・アフリカの各国を訪れ、ルワンダやパレスチナの紛争、カンボジアの大量虐殺などを通して「苦」の認識を深めてきた。その反面、日本仏教の比較的安穏な状況に疑問をおぼえ思案を重ねた。大河内にとつて「苦」とは概念として学ぶものではなく、心身を通じて体感されるものでなければならぬ。戦争や飢饉で苦しむ海外の人々の生活にふれることで、大河内は浄土宗の宗祖である法然上人が生きた時代、すなわち中世の民衆の苦しみと心をよせた。

大河内は浄土宗の教学はもとよ

り、四聖諦など仏教の根本的教えに注目し、苦の原因を個人的問題に限定せず近代の社会経済構造に求める。そしてタイのスラーク・シバラクサヤスリランカのアリヤトネなどのエンゲージド仏教のリーダーに同調した。つまり仏教は個人の目覚めにとどまらず、社会構造を変える宗教であるという見解である。

大河内は釈尊の伝統的な教えに浄土教の教学を重ね合わせた。従来、浄土宗や浄土真宗では死後往生が説かれてきたが、大河内は天国も地獄もこの世に顕現するとし、それ故に現世における浄土の建立を願う。こうした解釈は大河内に由来するものではないが、浄土教の歴史ではあまり支持されていない。

#### ◆発電所となった本堂屋根

大河内の現世での浄土建立の願



寿光院外観



寿光院の大ソーラーパネル

いる。そして「足温ネット」は、東京二十三区の自動車解体業者の六十パーセントが集中する江戸川区において、CFRリカバリーを行政予算で実施する事業を促し、日本における排出規制の呼び水となった。

しかし特記すべき事は、地域の市民による発電所の開発である。江戸川区はエネルギー供給を周辺地域の原子力発電や発掘燃料に依存していた。そこで既存の発電・金融産業から自立することが、大河内の課題となった。大河内と有志の努力は、一九九九年に市民立江戸川第一発電所として寿光院の敷地に実を結んだ。発電源は本堂の屋根である。寿光院の「寿光」は阿弥陀仏の「永遠の命」と「無限の光」を意味するが、

市民立江戸川第一発電所は更に新しい小経済を江戸川区にもたらした。設置者である「足温ネット」は、自然エネルギーに

### 投資の回収から 人間関係の回復へ

発電所の設立は、四百年続いた寺院の伝統的景観を著しく変えるものとなった。本堂は檀信徒の承認を得た後、環境にやさしい木材やコンクリートを使用して現代風な建物となった。そして従来の瓦は、年間六〇〇キロワット時のエネルギーを発電する二セットからなる三十個の大ソーラーパネル・セットに取り替えられた。寿光院の発電力は発電所として正式な認可を受けるには十分規模であり、ついに江戸川区市民立発電所第一号が誕生した。

市民立江戸川第一発電所は更に新しい小経済を江戸川区にもたらした。設置者である「足温ネット」は、自然エネルギーに

より産み出される電力を、プレミアム料金で購入してもらうことを提案した。年間六〇〇キロワット時発電される電力は、東京電力に火力や原子力で作る電気と同じ二十二円で買い取られる。しかし環境と未来へのコストを先取りしている自然エネルギーによる電気は、その価値を含んで買い取られるべきであろうという考えから、プレミアム分を市民に購入してもらうことを提案した。そして三〇キロワットあたり千円（ドイツの自然エネルギー使用標準値は一キロワットあたり五十五円）で区民に売却する環境発電証明書を二百枚発行することによって、発電所は始動から九年目で投資資金を回収する計算となる。その他、地元コミュニティと共存する社会作りの発展をめざして、証書購入者には、「えどがわつ」とよばれたテレフォンカー



「えどがわつ」と呼ばれる地元通貨

ド・サイズの地元通貨が配られた。この通貨は人と人との関係を大切にして信頼を築くことを目的とし、両親の不在中の子守仕事や通訳等に支払われた。このように市民立発電所は環境にやさしいエネルギーの創出にみならず、コミュニティ自身の社会資本の蓄積、失われた人間関係の回復を目標としている。

太陽発電所の設立が地元市民の環境保全への意識を高めメディアの注目を集める一方、寿光院は区民による更なる環境運動を続けている。以上、本論文で紹介した仏教寺院の活動は深刻化する二十一世紀の環境問題に指針を与えると同時に、宗教団体の空気・水・土地を守る姿勢を示すものである。

(文中敬称略)

文 ダンカン・隆賢・ウィリアムス  
一九六九年生まれ。長野県の曹洞宗広沢寺で得度。  
ハーバード大学より博士号を取得し、現在、カリフォルニア大学アーバイン校助教。東アジア仏教専攻。  
著書：The Other Side of Zen (二〇〇四年プリンストン大学出版)  
編集書：American Buddhism (一九九九年Curzon出版) / Buddhism and Ecology (一九九七年ハーバード大学出版)

# 禪

## 知識

### 上座仏教における瞑想と実践

#### まんだら(二)

#### ギヤナ・ラタナ

パーリ經典の重要な偈文の中で、釈尊は、「雨季に大きな傘が人びとを守るように、法は法に随う者たちを守る」と教示されました。

釈尊の主要な教えは、次の三つから成っています。その三つは、相互に補充し合い、仏教を発展させるものです。

1. 教法…これは、三蔵の学習と関連します。三蔵とは、釈尊の教説の集成であり、戒・定・慧を内容としています。

2. 行道法…これは、倫理的な行動、心の集中、仏教の瞑想システムを通じて獲得される直観的な智慧を鍛錬し発展させることを目指すものです。

3. 通達法…これは、実践の成果を教え、覚醒と、あらゆる類の心の汚れからの完全な解放をもたらします。これは、仏教的な意味と人生の目的に則って、通達法と呼ばれます。

教法は、ココナツツのようなものです。行道法は、ココナツツを割ることに、通達法の段階は、ココナツツを割り、その中身を食べることに似ており、これは本文が主として目的とするところです。しかしながら、我々は、この

三つの段階をもとに究明していくべきであり、それにより、寂静と幸福もたらされることでしょう。

#### 1. 「パーヴァナー」の意味

パーリ語の「パーヴァナー」は、「心の養成」を意味しており、英語では、一般的に「瞑想(Meditation)」と呼ばれますが、かなり曖昧な訳語でもあります。パーヴァナーには、二つの種類があります。一つは「心の鎮静(三昧)の養成」(止)、もう一方は、「洞察(智慧)の養成」(観)です。これら二つの重要な語、止と観は、經典類に頻出し、また説明されています。

2. 二種の瞑想 上記に見たように、上座仏教の伝統には、「止」「観」という二種の瞑想実践があります。以下に、この二種の瞑想法を、簡単に説明してみたいと思います。

2-1. 「止」 「止」とは、集中しており、不動であり、寂静であり、また、それゆえに汚れない心の状態です。「止」すなわち心の集中は、洞察(観)の条件となる、心の清浄をもたらします。三昧は、五種の心の欠陥(五蓋…貪り求めること、怒り、重苦しさや眠気、心のうわつきと後悔、ためらい)を浄化することにより、観のための欠

くべからざる基礎となり前提条件となります。この五蓋は、心の障害物であり、洞察を眩ますものです。これがあつたため、我々は、三昧に達することができず、真理をはつきりと見定めることができませ

くべからざる基礎となり前提条件となります。この五蓋は、心の障害物であり、洞察を眩ますものです。これがあつたため、我々は、三昧に達することができず、真理をはつきりと見定めることができませ

#### 2-2. 「観」

「観」は、身心のあらゆる現象、すなわち、色受想行識の五蘊が、無常・苦・無我であると直観する洞察です。「観」は、心の聖性と解放に関して四つの出世間的な段階をもたらします。それゆえ、釈尊は言われました。「比丘たちよ、心の集中を深めなさい。心を集中した者は、ありのままに事物を見る」(サンユッタ・ニカーヤ22・5)と。同様に『ミリンダ

王の問い』においても、「暗い部屋に灯りがともされたとき、ランプの光が闇を消し、光を生み出し広げられるように、洞察は、一度生じたなら、無知の闇を壊し、智慧の光を生み出す」と言われます。

3. 瞑想の実修法 「観」の瞑想法に

は、全部で十六の実習がありますが、ここでは、六つのみ、いくらが省略して紹介します。

ギヤナ長老、

「指導よろしゅう





実修1を十〜三十分行ってください。次に、右足または左足を進めるとき、「持ち上げている、踏んでいる」と動作を二段階に分けて認識します。これを、およそ十〜三十分行います。

【実修3】(1)座りながら、「膨らんでいる、縮んでいる、座っている、触れている」という四段階を認識します。

(2)横になりながら、「膨らんでいる、縮んでいる、横になっている、触れている」という四段階を認識します。(3)実修1と同じ。(4)経行は、実修1と2を、それぞれ十〜二十分行います。次に、「持ち上げている、出している、踏んでいる」という三段階に分けて動作を認識します。

【実修4】(1)座りながら、実修3と同様に、「膨らんでいる、縮んでいる、座っている、触れている」と認識しますが、この段階では、「触れている」を数回認識します。(2)横になりながら、「膨らんでいる、縮んでいる、横になっている、触れている」と四段階に分けて認識します。(3)実修1と同じ。(4)経行は、実修1〜3を、それぞれ十〜二十分行います。次に、「踵を上げている、持ち上げている、出している、踏んでいる」と四段階に分けて動作を認識します。これを、十〜二十分ほど行ってください。

【実修5】(1)坐法は実修3と同じですが、「触れている」と認識するとき、触覚が最もはっきりとしている箇所をみつけ、そこに集中してください。(2)横になりながら、「膨らんでいる、縮んでいる、横になっている、触れている」という四段階に分けて認識して

ください。(3)実修1と同じ。(4)経行するとき、実修1〜4をそれぞれ十〜二十分行います。次に、「踵を上げている、持ち上げている、出している、下ろしている、踏んでいる」というように認識を変えます。

【実修6】(1)坐法は実修3と同じですが、「触れている」と認識するとき、右の尻、左の尻、右膝、左膝、右足首、左足首、同様に、体の色々な部分で触れていることに気づきます。(2)横になっているときは、「膨らんでいる、縮んでいる、横になっている、触れている」と認識します。(3)実修1と同じ。(4)経行のときは、実修1〜5をそれぞれ五〜十分行ったあと、最後に、「踵を上げる、持ち上げる、出している、下ろしている、触れている、押している」と認識しながら、十〜二十分行います。

4. 結語 『大念処経』によると、積

出る」とその動作を認識してください。一步一步、このように認識してください。経行用の場所を端まで歩いてしまい、向きを変えようと思ったら、まず立ち止まり、その体勢を「立っている、立っている、立っている」と認識してください。次に、ゆっくりと静かに回りながら、その動作を「回っている、回っている、回っている」と認識してください。右回りに回ったら、まず立ち止まり、「立っています」と三回認識してください。そして、同じように動作を認識しながら、注意深く歩いてください。

それぞれの課題をよく味わい、十分な集中を得ることができるまで上記を実修し、次の段階に移ってください。

【実修2】(1)座りながら、「膨らんでいる、縮んでいる、座っている」と、三つの状態を認識してください。

(2)横になりながら、同様に認識してください。(3)実修1と同じ。(4)経行は、



尊は、瞑想をするとき、上記の四つの姿勢を用いるよう奨められました。もちろん、釈尊は、基礎となる四種の瞑想法を用いて実修することも奨められました。すなわち、①体への集中 ②感覚への集中 ③心への集中、そして最も重要なことですが、④上述の四つの姿勢で行じられている間の心の対象への集中です。また、經典に述べられています。また、一日でも、七日でも、十五日でも、一ヶ月乃至七ヶ月、あるいは、一年乃至七年、この修行が続けられるなら、以前の徳の多寡に関わらず、誰もが修行を成就するでしょう。



ギヤナ・ラタナ (Gyanan Ratna) 長老

一九六八年生まれ、バングラーデッシュ、チッタゴン出身。十二才で出家。チッタゴン大学英文学科、マハチュラロンコンン仏教大学(タム)に学ぶ。一九九四年来日。現在、愛知学院大学非常勤講師。文学博士。世界仏教青年連盟アドバイザー、マハマンダラ福祉協会(バングラーディッシュ)副会長。主著に「上座仏教の瞑想実践法」(英文)がある。





# 愛知県第三宗務所青年会

50年 足長 昭5  
 足長 会副 斎藤 5  
 会副 局長 鈴木 日  
 事務 局長 比呂  
 局次 長 西  
 務次 長 森  
 庶務 長 坂  
 会計 員 数 56  
 東方 耀 士  
 徳 貴 元 孝 徳  
 服 部 道 法



緑蔭禅の集い 全員揃って「ハイ、ポーズ!」

**愛** 知県第三宗務所青年会は、名古屋市の南、知多半島・西三河の青年会員で構成されています。当青年会三〇周年記念事業への海外からの多数の来場者を見込んだからかどうか定かではありませんが、常滑市沖に中部新国際空港（セントレア）が出来ました。この地域を憶えていただくには一番わかりやすいと思います。

**さ** て愛三青年会（略称）は、昭和五十年発足以来、月一回の研修会をつづけ、先輩講師、知三会（青年会OB）各位のご指導ご鞭撻を賜りながら、法式研修、青少年育成事業、檀信徒教化、会員交流事業を行なっています。今十五期より組織を改め、事務局

と、周年企画委員会・広報渉外委員会・緑蔭禅委員会・研修委員会の四つの委員会を設け活動しています。

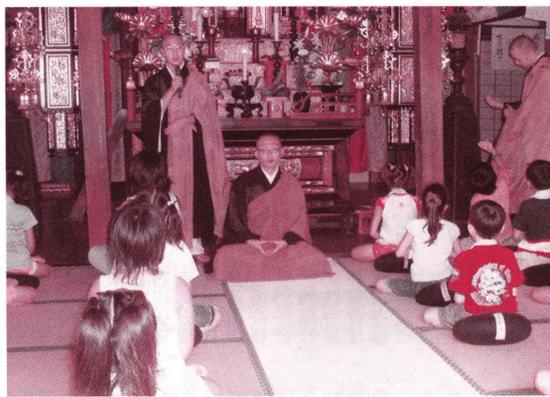
〇スローガン  
 「個の自立と公の調和の確立」

〇基本方針  
 一、創造に向かう自立の精神を目指した組織改革  
 二、未来を担う僧としての法式研修  
 三、禅とおした青少年教育  
 四、公の調和の確立を目指した情報の共有  
 五、感謝から育む友情

**発** 足からの特別行事として二回の授戒会、攝心会等を修行。記念事業として、カンタータ「只管打坐」のコンサート、二〇周年・二十五周年の二回に亘り「お葬式つてなくに」と題する青年会会員による演劇など、五年毎に事業を行って参りました。また、「叢林・洞門行法」「得度略作法」「お葬式つてなくに」「尊宿喪儀回向念誦」「檀信徒喪儀授戒作法」「檀信徒喪儀回向集」「尊宿・寺院葬儀法の参究」「塔婆書式法の参究」の発刊、並びに「歎佛聲明講義」DVDの発刊もいたしました。

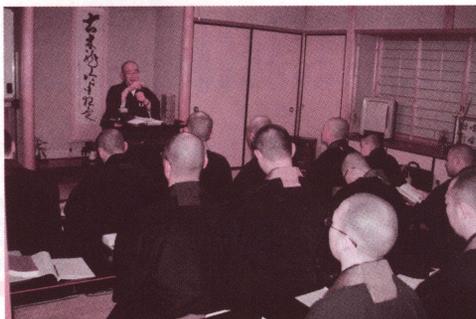
**本** 年、当青年会は設立三〇周年を迎えました。日頃の活動の成果を現し、また活動できることへの感

謝の意を込めて、先般「平和」「環境」をキーワードに『當願衆生』をメインテーマとし、人であったり自然であったり「分け隔て無く共に生きる」、次の世代に希望を渡すための一助になる事を願って、サブテーマを「今 伝える祈り、このころ」として、三〇周年記念大会を開催させていただきました。知多市勤労文化会館を会場に、一〇〇〇人近いたくさんの方々が、全書青会長・宮寺守正師をはじめ東海管区の青年会の皆さ



緑蔭禅の集い 小さい子供も坐禅がんばりました

佐野令彬老師より「大般若理趣分作法」を学ぶ



まにも多数ご来場いただきました。第一部では現実の身心に関する問題、そこから生起する「祈り」をテーマにした演劇・大般若法要・愛知高校合唱部「グリーンクラブ」による仏教讃歌・青年会員と「グリーンクラブ」とのコラボレーションによる四弘誓願の合唱を行いました。第二部ではアグネス・チャン氏に『水の惑星に生まれて』、美しい海と森について」と題する講演をいただき、結部として、『気づき』『願い』『祈り』『誓い』の実践を行ないました。諸先輩方の熱い思いを受け継ぎ、全員が協力しての事業となり、我々自身の研修にもなったと思っています。

**記** 念事業も円成し、当青年会では新たな団結が生まれ、今後の活動に向けて会員一同モーターに燃えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



切に思うことは、必ず遂ぐるなり!

# そうせい 相談室

相談員 中西 道信

**Q** 私は、現在福祉系の大学に通っている学生です。卒業を来年に控えています。まだ就職先は決まっています。でも、就職活動はあまり熱心していません。

昔からやりたいことがなくて、大学も何となく入りました。最初は友人と呑みに行ったり麻雀をしたりすることが楽しかったのですが、最近は何も飽きてあまり楽しくありません。でも付き合いが悪いと思われるのが嫌で、つい遊びに出してしまいます。

テレビでアフリカの子供たちが飢餓で苦しんでいるのを見ると、つい享乐的なことに走ってしまつて自分が嫌になります。このままではいけないと思うのですが、したいことが見つかりません。このまま張り合ひのない毎日が死ぬまで続くかもしれないと思つと、少しゾツとしてます。人生に目的を持っている人が羨ましいです。

**A** 遊びと人生の目的を同じレベルで考えるのは、本屋さんに行つて美味しいケーキを注文するようなもの。就職や遊びから人生まで全てをカバーできる目的を探す前に、自分自身を見つめ直す必要があると思つよ。

就職先は「決まってる」と言つていい、「決めてない」だけだろつ？

遊びだつて自分で決めていない。「付き合ひ」と言つて選択を避けているんだ。だから楽しくない。所詮楽しんで貰わなければ楽しくないんだよ。楽しませる方はないへんさ。

考えてごらんよ、「このまま張り合ひのない毎日が死ぬまで続くかもしれない」と思つているよつだけれど、逆に「張り合ひのある毎日」とは何なんだろつね？

一日の中には睡眠や食事、洗面や入浴など「死ぬまで続けなくてはならない」ところが幾つもあるよ。二十四時間からこれらの所要時間を差し引いた残りの時間を「張り合ひのある時間」にしたいのかな？

そうではないでしょう。あなたは目標や目的を持てば一日の全てが変わり、毎日が変わると思つている。変わったら「飯を食べないの？ 寝ないの？」

やる気が起きないからやらないではないんだよ。やらなければならないんだ。生まれた時から目的がある人なんて誰もいないさ。生きる中から出てくるんだよ。

だって、あなたの欲しがっている「人

生の目的」は人から貰うことが出来ないじゃないか。そもそも何処に持つんだい。あなたの意識や心の中に持つんだよね。「毎日が変わる」と思つているのもあなた。意識や心を持つのもあなただよ。誰も邪魔なんかしない。

「そんなこと言われても何して良いか解らないし、迷つてるんだ」と言つて声がかえそつだね。また自分で決めないのかい。私に「お付き合ひ」するのかい？ 解つてるのさ本当は。「呑みに行つたり麻雀をしたりしてもあまり楽しくない」んだろつ。

「アフリカの子供たちが飢餓に苦しんでいるのを見ると、このままではいけないと思つ」んだろつ。

本当の意味で「解らない」とか「迷つている」というのは「享乐的な生活が楽しくてしょうがなく止められない。アフリカの子供たちが飢餓に苦しんでいるのを見て、何も感じないし関係ない」といつことだからね。

○中西 道信 (なかにし どうしん)



昭和三十一年八月三十日生まれ。長野県大安寺住職。駒澤大学仏教学部卒業後、昭和五十九年大本山永平寺入門。平成十三年より永平寺伝道部講師、同十五年より講師兼人權擁護推進室主事を経て、現在永平寺非常勤講師。曹洞宗浄土家。

落雁諸江屋

創業者永平二年(一八四七)

全沢市増東三丁目六の三五  
TEL(052)331-1121・1124・1126  
FAX(052)331-2477・1849

大本山永平寺御用  
大本山總持寺御用

修復工事から新築工事まであらゆる対震(=対地震)工事に最新技術\*で対応しております。日本古来の伝統の技を伝承する、魚津の設計と施工。

\*大本山總持寺香積台耐震改修工事で採用させて頂きました。

神社・仏閣専門建築

株式会社 魚津社寺工務店

〒454-0004 名古屋市中西区西日置二丁目12番20号  
TEL(052)331-3080・0854 FAX(052)332-3540  
http://www.uotushaji.co.jp/



# あまんず そうせい

## “あまんず”の由来

長野県東昌寺副住職 飯島 恵道

この連載のタイトルは「あまんずそうせい」。はて“あまんず”とは何ぞや？ と首をかしげた方も多かったと思う。今回は「あまんず」について紹介しよう。あまんずをローマ字に直すと「amans」。これは私が作った言葉。「ama=尼」「ns=ナース」二つをくっつけて「amans」。僧職に就く前は看護師をしていた。最後に勤務していたのは緩和ケア病棟（PCU）、いわゆるホスピスである。そこで行われるケアは「様々な痛みから解放された状態で、最期の時まで“自身の人生の主人公”として生きることを願う方のために提供されるトータルケア」である。“緩和ケアの実践”は“苦滅の実践”に通ずる。故に、僧侶としての私の日々の営みの根底には“苦滅の実践としての緩和ケア”があり、病院を去った今も、私の中ではケアは続いている。これこそ「あまんず的仏道の歩き方」である。

さて、「尼」のほうはというと…。戦後、「尼和尚」という言葉がなくなり、今では男女の区別無く「和尚」ということになっている。制度上は男女平等であるので、「尼」という文字を使うことは相応しいことではないのかもしれない。しかし、ざっと周囲を見渡してみても、理想的な平等が実現していると言うには程遠い感は否めない。今、尼僧の数は減少の一途をたどり、高齢化、後継者不足が深刻化している。多くの尼僧は結婚せず（夫帯せず？）一生独身で過ごす。故に世襲の後継者というの

が居ないのだ。これも尼僧人口の減少に拍車をかけているように思うが、僧侶としての正道を歩いている故のことなのだから、いちがいに「原因」とは言い切れない。いずれにせよ、尼僧人口増加の兆しは一向に見えず、将来に対して悲観的にならざるを得ない状態である。高齢で独居の尼僧のお世話をするのは誰か？ 介護保険をはじめ、法的な整備が進んでいるのだから、それは地域の行政に任せれば良さそうなものであるが、本当にそれで大丈夫だろうか？ ケアの現場にいた人間としては、尼僧が生涯その道を全うするために必要なケアを提供できるほど、ケアの現場は成熟していない。これが私の率直な思いである。私の寺の東堂は80代、住職は70代。私自身、今まさに高齢化の現場に居合わせている。オーマイガ〜！ そこで「寺自体をケアの現場にしまおう！」と目論見、計画は着々と進んでいる。これについては追ってご報告申し上げます。それではまた。



### ◇筆者プロフィール◇

飯島 恵道（いじま けいどう）  
長野県松本生まれ。尼寺育ち。生と死、命をキーワードに、僧侶としての活動の中で、看護師資格をいかせる現場を模索中。

### ダライ・ラマ 講演レポート

#### ダライ・ラマ法王来日講演に

出席してきました

本年四月十五、十六日と金沢で行われた講演は、龍樹菩薩の「菩提心の解説」という演題だった。快晴の空の下、全国から抽選で選ばれた聴衆は驚くほどに若者が多い。日々の生活の中に活かせる何かを学びに来ている人、カリスマ性を求めて来た人、有名人に会いに来た感覚の人などさまざまと思われるが、当選したことは単なる偶然ではなく縁があるのだろう。場外のスクリーン席まで満席だった。早くもこの段階で場内は少し興奮気味。

目の前のステージにはチベットの大タンカ（仏画）が掛けられている。法王はおなじみの姿で登場し、聴衆の多くは立ちあがり迎える。ゆっくり聴衆を見つめ一言。「菩提心とは修行（正しい生き方？）の土台となるもので、十分な理解をしなければならぬ…」待ちに待った法王の提唱。

「私たちの人生には苦しみと幸せがある。宗教の役割とは、苦しみが生じた時にそれを減していくことにある。精神的に幸せな状態であれば、肉体的に苦しい状態であっても乗り越えていける。心の中のものの考え方が大切なのである」。「他宗派の教えに関心を持ち、実践のなかに取り入れることは素晴らしいことである。優れた点を取り入れ、実践していくことは、周囲の人にとっても有用なことであろう」という言葉が強く印象に残った。

外国語に接するといつも思うことだが、やっぱり生で言葉の意味を理解↓

# 寺族の窓

秋田県鹿角市花輪 恩徳寺寺族 岩 館 香央里

お檀家のAさんは、毎朝お寺にいらして、境内のお花の手入れを下さいます。お寺の行事は皆勤賞。こういうお寺を大切に思っ下さる方の存在が、寺族としての私の励みになっております。

副住職の妻となり、お寺に入ってから六年が経ちました。その間、先住の遷化による密葬・本葬・年回法要、お位牌堂の落慶式など、近年稀に見るほど、多くの寺院行事が催されました。住職と共に寺の運営に当たっておりますが、それも私達だけではできません。住職と、お檀家さんのご協力の上に成り立っております。当寺には、現住職の晋山式を行う際に結成された、通称「サポート婦人会」なるグループがあります。お寺の行事の際にお手伝い下さるお檀家さんのご婦人方です。住職の妻である母の采配のもとテキパキと動いて下さり、いつも心から「お陰さま」を感じております。そしてそれと同時に、果たして私の代になっても、こういうありがたい方たちに恵まれるのだろうか？と不安に思うのです。

「私たち、もう年取って、なんでもきねぐなつたんす」毎年お盆前に、境内・墓地の草取りを奉仕して下さっていた方たちにそう言われたのは、三年前のことです。その後草取りは、シルバー人材センターなどをお願いして恙なく運んでありますが、実はこれこそ、当寺が今直面している問題です。昨今盛んに叫ばれている「お寺離れ」というよりは、その前段階ともいえる「お寺に熱心な方がたの高齢化」を加えて「お寺はお年寄りだけの集まる所」と決め付けられがちです。でも、現在お寺に尽くして下さい方たちは、何十年も、つまり、若かりし頃からお寺にいらして下さい方です。「今の若（わけ）え人は皆忙しいから、お寺に来る暇ねえべもの」「ご年配の方たちはそうおっしゃいます。でも、今お寺に求められることは、若い方たちが仏事以外にもお寺に足を運んで下さり、お寺の存在をより身近に、自然に受け入れていただくための創意工夫だと思えます。お檀家さんの世代交代、これがうまく成されることこそが、お寺離れを防ぐ方法だと思っております。

三年前に落慶したお位牌堂は、三世堂と名付け、地獄絵図や三途の川、誕生仏から涅槃像までのお釈迦様の仏像などを、ストーリー性を持たせて配置し、仏教を視覚化したものです。「是非お子さんやお孫さんと一緒にお参りいただき、ご先祖様の供養と共に、幼い心で善悪などを学んでほしい」と、住職は言います。現在この意向に沿って、子供坐禅会・ボーイスカウトの活動などに、積極的にご利用いただいております。お寺は「不幸の時だけ行くところ」この概念を打破したい、お寺をみんなが気軽に集える社会参加の場としたい、これが今の私の願いであり目標です。

今夜「お彼岸の夕べ」と題して、本堂でマリンバのコンサートがありました。いらして下さい方皆さんは、置にひざをついて、または足を伸ばしてのご鑑賞。これは、お寺ならではの光景です。中日の夜には、副住職による「星の話」がありました。数日後には両祖忌の法要があります。あるお檀家さんがおっしゃいました。「最近お寺にはすっかりおじゃましています」それを聞いた時、私は心の中でガッツポーズをしたのでした（ウフッ）。ちなみに冒頭Aさんの皆勤賞は継続中でありませぬ。

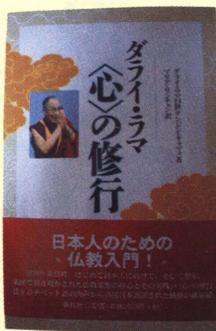
合掌

↓したい。通訳を通すと、法王の「魂」との距離感を感じてしまっ。本当にたくさんのお聴衆が来ている。『すべての人びとから苦惱を取り除きたい』法王はそう語った。虚偽が多い現代、聴衆は本物を求めている。ダライ・ラマ、それは「智慧の大洋」という意である。智慧は自らの生活に活かしてこそ意味がある。（田中記）

## ダライ・ラマ（心）の修行

（春秋社刊、二、一〇〇〇円）

ダライ・ラマ法王は何度か来日を果たしていますが、本書は一九九八年の来日講演の記録です。チベット仏教では輪廻の中で生存という前提が実感としてあり、そこに苦しみの原因を見出しています。そこから抜け出すための実践論として本書では「出離の心」、「菩提心」、「正しい見解」を法王は説くのです。今回の講演のテーマの「菩提心」も取り上げられている本書は、教義と経験に裏打ちされた内容で、我々には少々難しい部分もありますが、草末の聴衆の日常生活における疑問に答えるコーナー（講演時の質疑応答）では、時に人間味のある答えて、法王を身近な存在に感じさせてくれるものです。



# 菜食健美

## 煮崩れたのをこんな風にいかが

皆さんこんにちは。煮物であまってしまったり、崩れてしまったりした食材どうしていますか。昨日のおかずが姿をかえてみんな食べきると何かいい気分になりますよ。

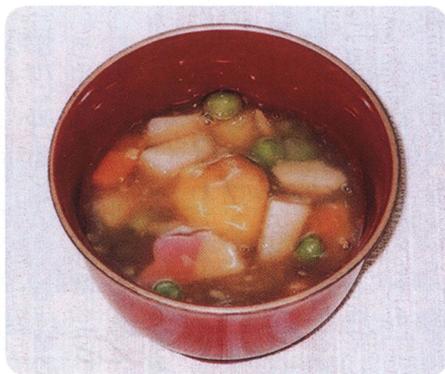
今回は、私の地元で時折作られる「練りこみ」と「カテキン入り栗ごはん」を紹介します。

練りこみは古くから伝わる郷土料理であり、甘めに煮込んでおやつがわりに食べた時代もあったようです。

最近「カテキン」という言葉を多く耳にします。ご存知の通り緑茶葉にとっても多く含まれている成分で、健康な生活に効果的だと話題になっていくくらいです。いつもの栗ごはんにちよつと手を加えて、ひと味変わった風味を楽しめます。

特別に選んだ緑茶葉でなくても、今そこにある緑茶葉で早速やってみましょう。

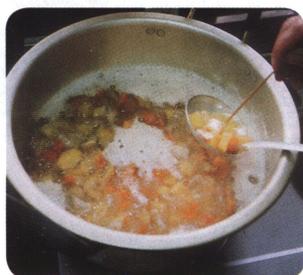
### 練りこみ



材料：里芋、人参、などの煮物のあまり  
（そのほか今回はグリーンピース、生麩、栗などいろいろいれましたが、みなさんのお好みでいいです。）

#### 作り方

①味付けしていない  
具材をサイコロ型に切つてから煮はじめ。



②全体が煮えてきたら、味付けをした残りの具材も同じ大きさにして鍋に入れる。

③味付けは砂糖あるいはみりんできくしてから濃口醤油で整える。

④全体を甘めに仕上げ、最後に片栗粉でとろみをつけて出来上がり。

### カテキン入り栗ごはん



材料：白米、水、茹でた栗、搗った緑茶葉  
（餅米あれば2割、これもお好み）

#### 作り方

①炊飯の前に栗を加えて皮をむいておく。  
市販の瓶詰めの甘露煮の栗を使う

ときは、くしに刺して火であぶると良い。

②緑茶を搗つて茶葉の芯を取り除く。

あまり細かくしすぎないように注意。

③通常の炊飯で栗・緑茶葉と一緒に炊き込む。  
緑茶葉を炊き上がったから振りかけるも良し。



文 白澤 雪俊（しらさわせつしゅん）  
昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。

十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学（仏教科）に学ぶ。

卒業後一年間東京都港区の青松寺に随身（住職にお仕えし学ぶ修行僧）として過ごし、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間の中、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。

現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、青森県弘前書芸会会長も務める。著書：『身体にやさしい料理をつくる』（ニュートンプレス）

## 宛転偏円

月日の経つのは早いもので、十六期がスタートして早くも半年が経った。会長の任に当らせていただき、六月には九州管区大会、九月は愛知第三曹青会・岩手曹青会の三〇周年記念大会、十月の東北管区大会と参加させていただく機会があった。どの大会も、時代の的を射た青年宗侶らしい企画を盛込んだ事業であり、全曹青執行部が良い意味で煽られている様な気がした。

中でも愛知第三事務所青年会での設立三〇周年記念事業は素晴らしいものであった。『當願衆生』と今伝える祈り、このころと題されたこの事業は、『平和・環境』をキーワードに、分け隔てなく共に生きることを誓い合い、平和への祈りを表したものであった。映像と音響を駆使し、一般参加者へと呼掛けていた姿には、斎藤会長を始めとした会の強い連帯を感じた。

青年会活動の根本には、日頃の仏事等で檀信徒の皆さまと身近に接点を持ち、同じ目線で物事が語れる良さがあると思う。檀信徒の青年宗侶に対する願いがあり、想いがある。私達はそれらを敏感に感じ取り、応え導いて行かなければならない。過去をどのように過ごしてきたかや、今後どうするかではなく、今を如何に宗門人として生きているか。

願わくは衆生と共に……。愛知第三曹青会記念事業に参加させて頂いた事で、改めて自問自答をし、曹青活動の在り方を見直さなければと痛感させられた。

全国曹洞宗青年会 会長  
宮寺守正

## 『ARA・KAN KAN』の独り言

大陸には、先住民達が精霊や祖霊との交信をするために生まれた音具が在ります。その多くは、実に不思議な音色と響きを備え、耳や身体を一気に飛び越えて命に関わるところまで入ってきます。初めてこういった類の音に出逢った人は、驚き怯えたりもしますが、徐々に空間に渦となって広がっていく音の変化に、身体の奥から解け安心していく様を見ることが出来ます。

ワークショップでは、こういった呪術的音具や法具の他に、私の生活圏の中で共生している木や植物から生まれた音具も利用しています。これまでかなり多くの種類を作りました。それらは音も不安定で壊れやすいものですが、同時に、常に新しい唯一無二の音を私に伝えてくれます。

先日、大学生たちと精霊交信の道具と一緒に作る事になりました。1本の竹から音を引き出すのです。彼らの多くにとっては初めて触れる竹でしたので思うようにいかず、慣れるまでに時間が掛かりましたが、自分なりに何か大切なことに気づくと、次々と作業をこなしてあつという間に作り上げてまいります。

実はこの時間の中で、私が大切にしたい事を少しだけ話してみました。「竹を曲げるとき、どんなふうに曲げたらいいかは竹に聞いてね」「切るとき、削るときは道具と話しながらね」等々。

## 音のいのち

ひとりひとりが材料、道具、カラダ、そして自分を包んでいる空間と繋がることで、この世でたった一つの音が生まれるのです。

そして、私はこの無数に生まれ続ける音たちを「いのち」と呼んでみたいと思うようになりました。実際には人間の様に血の通っていない、呼吸もしていない、体温も無い存在なのに音の中には意思のようなものが生まれ、動いては消えていくように思えます。

以前、赤ちゃん達と音遊びをした際に、みんながキョロキョロ目で追っていたものは、私や音具の姿ではなく、音の姿、「いのち」であったのかもしれない。そんな気がするのです。

### ◆荒 利美(あら としみ) プロフィール

1960年 福島県新地町生まれ、鍼灸師。  
治療のかたわら、竹や瓢箪などのオリジナル・ハンドメイドの楽器を作り、演奏活動をしている。  
最近では、「子供の情操に訴える演奏家」として、各教育機関や、各宗派寺院、各曹青会へも講師として招かれ、子供たちと「音」を交信している。

### ※『ARA・KAN KAN』とは？

本人のニックネーム。演奏活動で「空缶」を使用することから、その音を取って命名す。

## 第5回全国青年僧侶弁論大会 弁士募集

予選会：2006年1月20日13時より  
東京グランドホテル4階・芙蓉の間  
本大会：2006年3月24日13時より  
パシフィコ横浜  
問い合わせ・申込先  
神奈川県伊勢原市善波628 勝興寺内  
電話 0463-92-0791 FAX 0463-92-0796

「そうせい」に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

○あて先 〒369-0301  
埼玉県児玉郡上里町金久保701  
陽雲寺内 そうせいサロン係  
FAX 0495-33-8255 武田まで  
メール 16th-koho@mbp.nifty.com

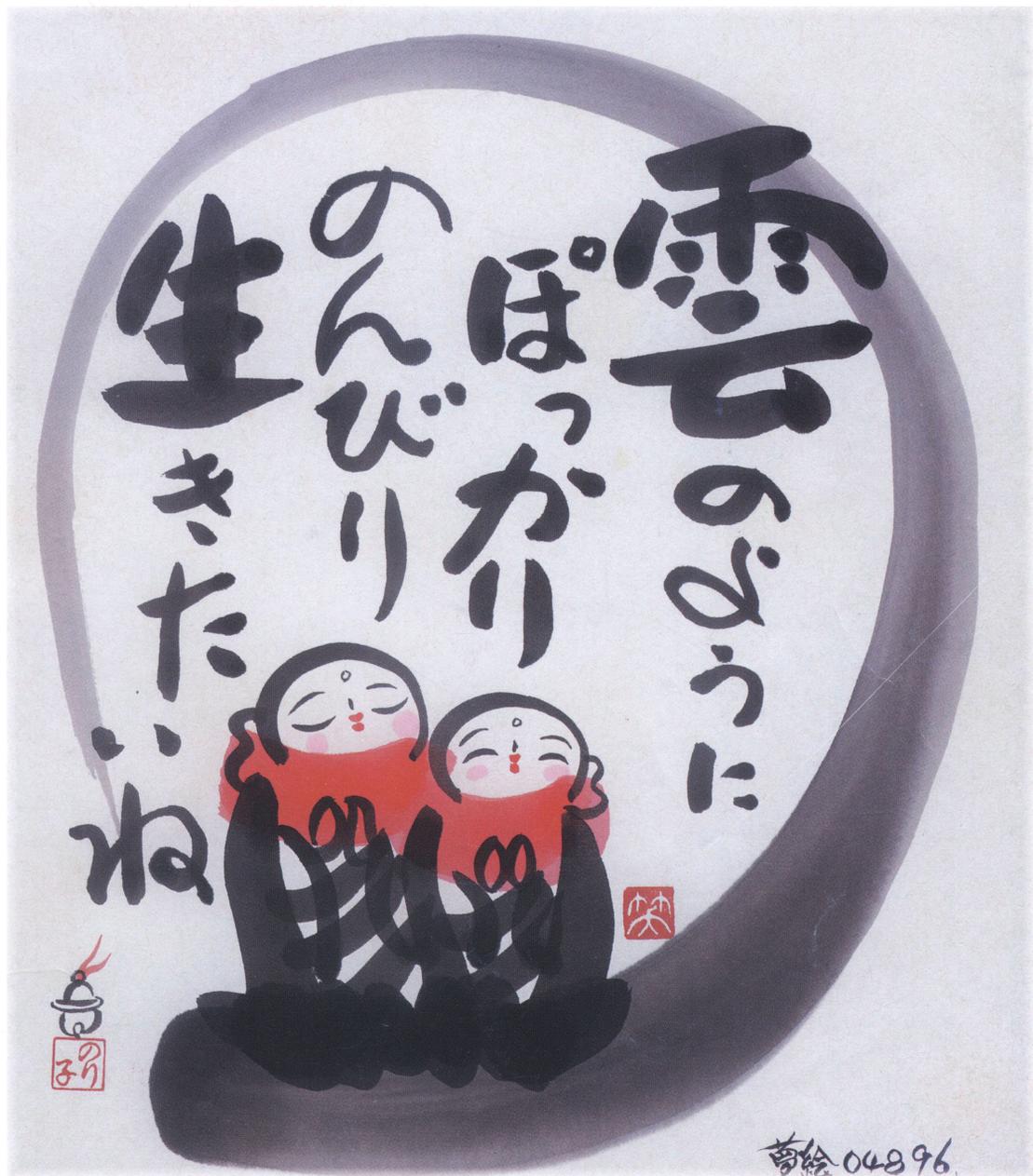
《お詫びと訂正》  
一三〇号十三ページにおいて、外田四国管区理事の表記が誤っていました。  
誤(栞) ↓正(狹)  
お詫びして訂正いたします。

## 編集後記

このほど、厚生労働省の予測では、来年をピークに人口減少時代に入ると発表されました。このことは我々青年僧侶が人口減少時代に、どのように対応するかという問題も現実として視野に入ると考えられます。その「どのように対応するか」が課題となるならば、今号の特集記事「アヌシ世代のための宗教ガイド」や「青少年教化委員会レポート」精神医療の現場から」等が、読者へのアプローチとなればと編集室は切に願います。前者が若年層に対応するべく、現実の具現化が焦点となり、後者が高齢者の方がたで、本文中の「こちらに期待されていること」と「こちらにできること」にギャップがあるのではないかと、という疑問と答えの探求。同感する人は少なくないと思います。走り始めたばかりの編集室ですが、さまざまなる事に対して、可能な限り多角的に物事を捉え、且つ多様化しすぎず、指針には「つながらぬ青年僧の熱い思い」を掲げ、皆さまからのご助言やご叱咤を沢山頂戴できるように邁進してゆきたいと考えております。今後とも『そうせい』改め『SOUSEI』を宜しく申し上げます。

# そうせい美術館

S O U S E I G A L L E R Y



## 行雲流生

### 作者プロフィール

鈴倭のりこ (すずわ のりこ)

福島県浪江町生まれ。S48年より独学で和紙人形を作り始め、「鈴倭人形」を創作。S59年福島県知事賞受賞。H8年全国商工連合会より「人間国宝」に選ばれる。H13年12月1日「夢海庵・鈴倭人形美術館」開館。地元紙への随筆寄稿、テレビ・ラジオ出演、各地各種団体での講演、作品展示他多数。

H12年4月 板橋興宗禅師について出家得度。曹洞宗尼僧名「笑雲夢海」

キリトリ線

発行所 全国曹洞宗青年会 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内/発行責任者 宮寺守正 編集責任者 久間泰弘 編集委員 河村康仁・森田英仁・青野貴芳・板倉省吾・武田光誠・田中徳雲・村松保人・藤本総章・広瀬知哲  
本誌編集部へのお問い合わせ先 〒369-0301 埼玉県児玉郡上里町金久保701 陽雲寺内 ☎(0495)338255 武田 全曹青ホームページ <http://www.sousei.jp/> 印刷所 株式会社 中央デザイン 定価 二百円